唐土名勝圖會

四

唐土名勝圖會第一集卷之四

目次

外城總圖　目録

外城之東　外城之西

苑囿總圖　苑囿郊坰

特別
ル5
4025
4

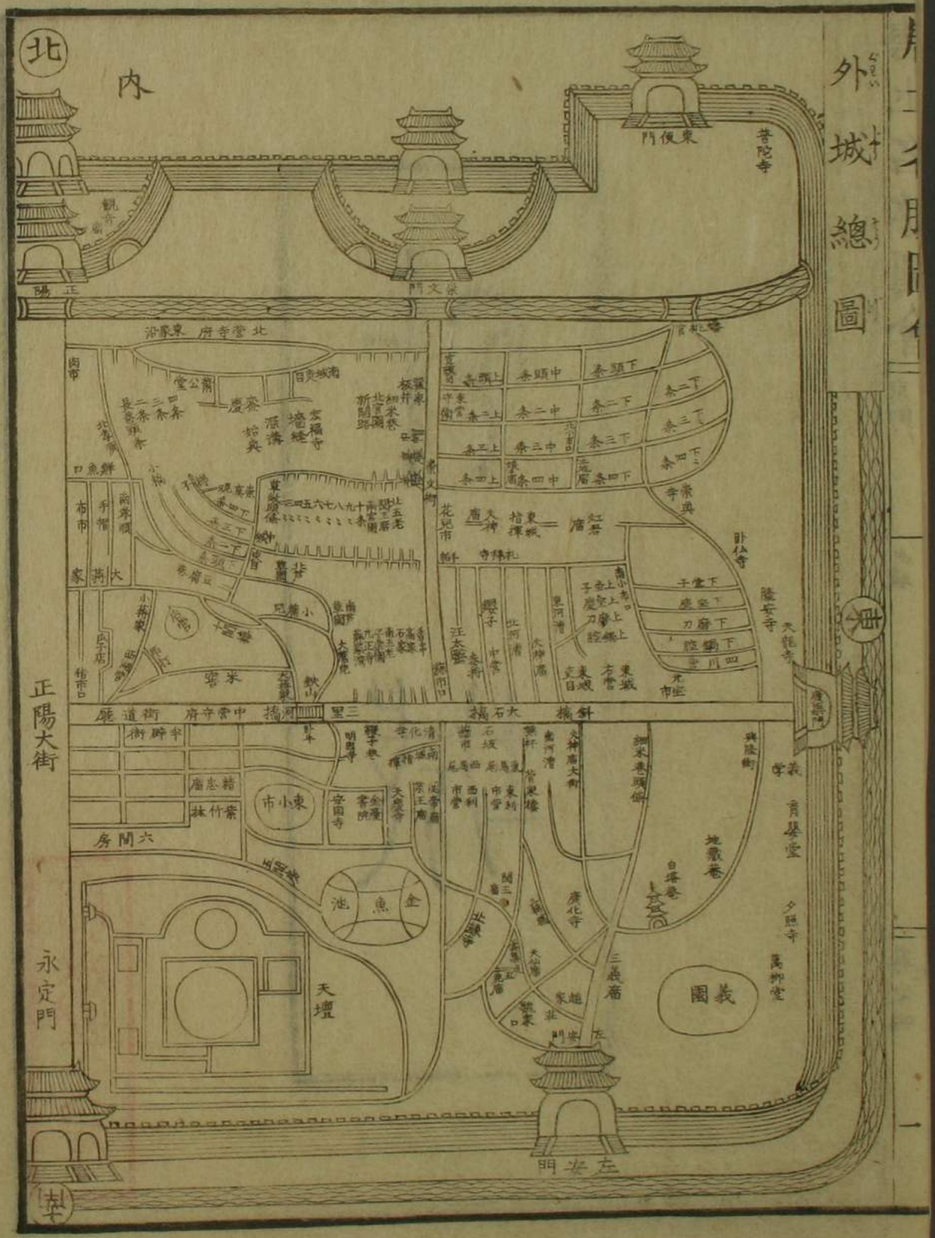
外城

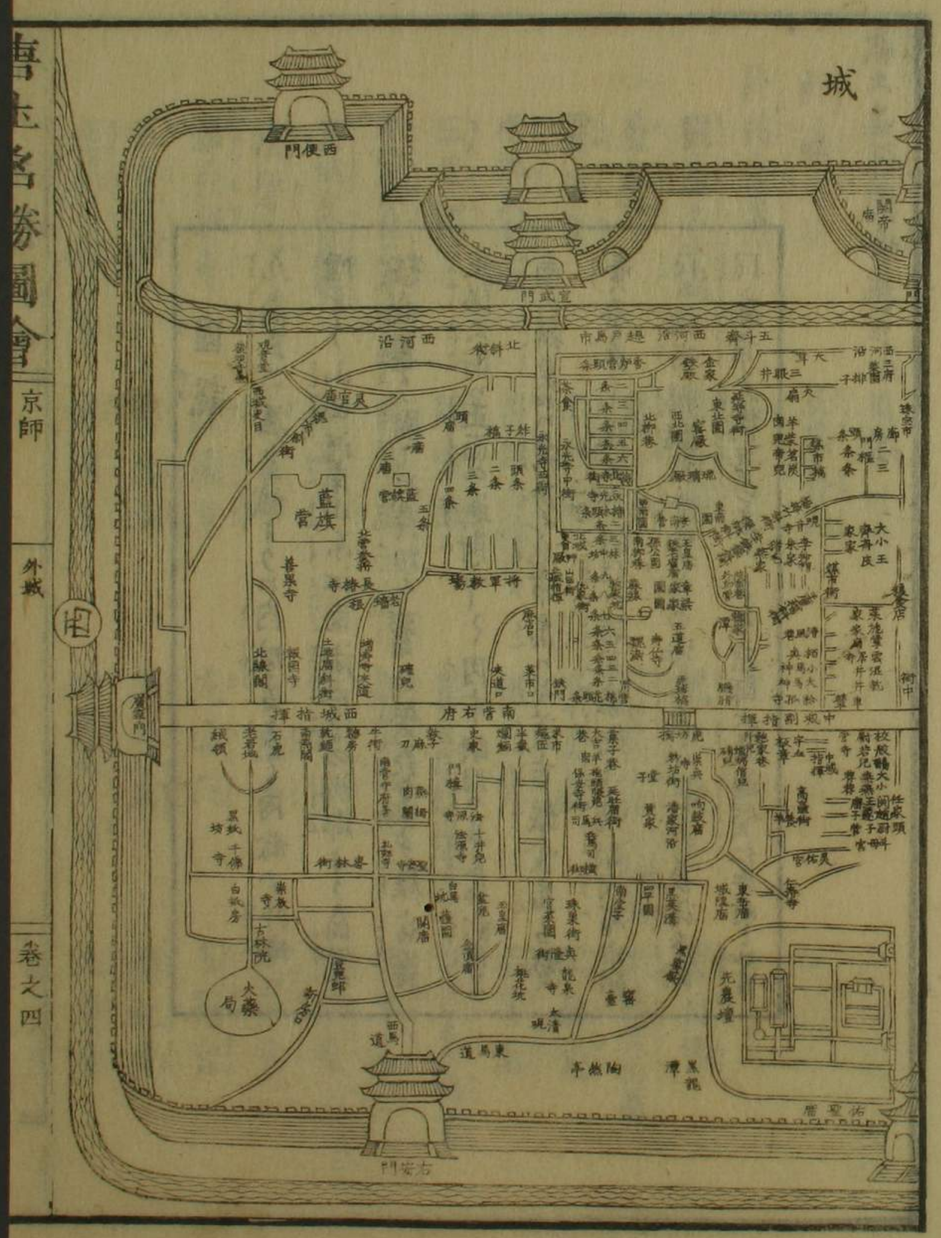
阿波國文庫

ル5
4025
4

<99-183>

外城總圖


北
內城
東便門
觀音庵
普陀寺
正陽門
崇文門
北營寺府
東營寺府
肉市
布市
花兒市
鮮魚口
珠寶市
打磨廠
琉璃廠
觀音寺
東小市
六鋪炕
三里河橋
大石橋
針市
西河沿
正陽大街
永定門
天壇
池
魚
義園
地藏庵
廣化寺
三義廟
白塔寺
興隆街
東岳廟
關帝廟
火神廟大街
左安門


北
城
西便門
宣武門
西河沿
北斜街
長椿街
藍房營
藍靛廠
善果寺
北極閣
觀音寺
五斗齋
西河沿
油子胡同
三官廟
大小王莊
東小園
南營右府
西城指揮
中城指揮
校尉大小閘廠
火藥局
白紙坊
古林寺
西馬道
東馬道
陶然亭
黑龍潭
先農壇
右安門

圖說

凡漢民の屋皇城より内城を多く内城より外城の
增もより山西河南山東江南浙江等の州郡より商賈
駱駝集り國々の産物を鬻き繁花なる事雒言盡
正陽大街より正面の通街うち内市胡同より羊肉の割肉を
商ひ鮮魚より京店之瓦市店より茶市糧食店を賛
賣屋多し珠玉市胡同より器用家街手帕胡同より布市胡
同より綿布帽鞋手套等の物と高ひ其外長椿寺胡
同廟市大街等の名所日本京師六角通賢仁寺町と如言

外城　正陽外門

外城之東

觀音大士廟　關帝廟
蚕樓　蕭公堂
靈佑宮　關帝廟
中城史目署　吳越王錢繆
三星河　關帝廟
中営水南二寺備署　火神廟
東城史目署　卧佛寺
廣渠門　義學
北花禪寺　法藏寺
五虎廟　華嚴寺
南城正指揮署　明因寺

龍王堂　東月壇
北営内小東守備署　南城史目署
崇真觀　關帝廟
鐵山寺　三官廟
崇文門稅務署　中営參將署
都竈君廟　太平宮
爐聖菴　隆安寺
育嬰堂　夕照寺
左安門　右陽宮
關帝廟　清化寺
姚枌關王廟　天慶寺

永濟橋　金鑾書院
南營水南一守備署　精忠廟
衙幸殿　永定門
外城之西
西月墻　萬壽閔帝廟
大學士蔡文安載邵　大學士李文貞邵
織苑鶴廟　琉璃廠
北城正指揮署　松筠禪林
洗象　長椿寺
大慈仁寺　廣德寺
西城史目署　西便門
白紙坊　古林院
聖安寺　寄園
玉皇廟　水月禪院

魚藻池　延壽寺　撻頊菴　東小市
天壇　菽園　梁家園　園丘
順城門
戲園
大學士陳文简邵

閔帝廟　張桐公廟　元帝廟　晉陽巷
還窖廠　窖臺　慈惠菴　陶然亭
黑龍潭　都城隍廟　東嶽廟　仁壽寺
斗姥宮　先農壇　親耕　觀音寺
苑囿總圖　郊垌　松林閘　土城園
臥虎橋　多宝佛塔禪院　北極寺　功德林
方澤壇　蓟門烟樹　北營遊擊署　東黃寺
西黃寺　華藏寺　護國天仙廟　滿井
望京村墩臺　北營外西一守備署　明令忠潔公墓　弼德院
東嶽廟　朝日壇　東城副指揮署　中官外東小守備署
北營外西一守備署　天妃宮　浄住寺　隆壽寺
黑松林　譙樓臺　大通橋　藍靛廠
三忠祠　三忠祠　中營外東南守備署　祁本殿
延壽寺　延壽寺　宏善寺　隆禧寺

呂望居斬韓信
舊衙門行宮
南紗宮
元靈宮
永祐廟
草橋
廣恩寺
廣寧門
蘆溝河
大慈觀音寺
元劉秉忠墓
崇壽寺
夕尺壇
慈壽寺

金臺
晾鷹臺
新衙門
永慕寺
寧祐廟
百泉溪
九蓮慈蔭寺
天寧寺
蘆溝橋
普濟堂
白雲觀
關帝廟
宝塔寺
摩訶菴

南苑
大園
圀河行宮
德壽寺
龍王廟
豐臺
祖氏園
柳巷村
金閣寺
福生寺
弘慈墓
三義廟
慈悲院
祁虎橋

更衣殿
雙柳樹
碧霞元君廟
関帝廟
南路同知署
南營外南二寺備署
牟氏園
湿水
惠濟寺
西路同知署
玉淵潭
右乙集仙觀
靜樂堂
西城副指揮署

慈慧寺
雙林寺
極樂寺
萬壽寺
清華園
永寧寺
覺生寺
圀明園守備署
清漪園
龍神廟
呂公洞
辭宜園名德署
親音堂
圀通寺

西域寺
西直門
大眞覺寺
萬壽街
洪雅園
聖化寺
西苑園
昆明湖
大報恩延壽寺
玉泉山
上下華嚴寺
元福寺
高梁橋
白石橋
暢春園
永通寺
圓明園
功德寺
耶律楚材墓
龍王廟
西山
荷葉山
五華寺
退翁亭

顯應寺
樂善園
長春園
甕山
畫眉山
繁明園
中營遊擊署
十方普覺寺
廣泉寺
廣應寺
善陀山
隆教寺
大和巷

靜宜園　香山寺　十八盤山
洪光寺　宗鏡大昭廟　中峯
翠巖寺　杏子口　靜宜園把總署　盧師山
平坡山　嘉禧寺　馬鞍山　仰山
滴水巖　油雲寺　百華山　燕山
西湖山　百望山

唐土名勝圖會卷之四

編述　法橋　岡田玉山尚友
全　岡　熊岳文暉　畫
大原東野民聲

故兼葭堂木世肅先生遺意

外城

外城・内城の南面を包める城なり。南面の亘り三千八里高さ二丈。羅城門七。南を永定門と云。南の西を右安門と云。東を廣渠門。西を廣寧門と云。東北の隅に向ひて東便門あり。西北の隅に向ひて西便門あり。正南永定門より即内城正陽門の正中なり。此通を正陽大街と云。此街の小さき正陽橋あり。石欄三洞。陽門外城河に跨る。橋の南に旗樓後樞と建て國門常に閉て開くことなし。月城の東西に洞門あり。城中外の居民これより出入す。東の方廣渠門街・西の方廣寧門街と直に通じ。其正陽街の十字街を猪市口と名く。左安門街・

即ち内城の城濠なり

内城

護城河

城閘

閘樓

正陽外門

正陽門正陽橋

○正陽門は即内城の正南の大門なり正陽橋は正陽街の前外城を係ぐ凡そ跨ぐ橋は皆門に向ふ三箇の路一なり

○外城の七門皆甕城あり其甕圍一度永定門内城の西直門と同じく城圍角に東便西便の二門あり城圍とは

○城河の水玉泉山より發して西より流れ内城の九門を遶て大通河へ通ずるなり

東月墻

城河

東河沿

正陽大街

西河沿

外城之東

觀音大士廟

月城の内東迫にあり。眼の靈驗

龍王堂

碑あり。筆甚圓勁なり。

月城の東の門の外、東城の根さゝらに一ノ朝陽門あり。

刑部尚書張昭

十又百ゝ。慶二年二月十又百と堂名に賜ふ。

○東月橋　東河より門の外正陽橋にかゝる。其形彎曲のさま虹の如し。

城百貨と南の城を傳ふるの交通を荷包橋といふ。正陽大街石道の左右に槐蓋の棚房多くみて鋒と區

の官民群集して日用の雜物果菜の屬を賣る大街東側市房の後ろ裡

街ゝて悉く商賈匠作貨棧と開て生業とす。其街の名、内市或ハ店南を斜ニ猶ルよりあり。其横ゝ胡同と

打磨廠ゝ云。稍北を東河沿といふ。鮮魚

二條、三條、四條、五條、六條ゝ又蘇胡同ゝ

○查樓　肉市ゝゝ。查樓ハ戴嵩の名なり。

此街ハ小木坊あり。查樓の

廣和查樓の

額を懸さり。○蕭公堂　打磨廠あり。

蕭公の人物ゝ

西の人ゝゝ。居住ハ詳ならず。蕭公ハ唐の時の人ゝて其名を洋ふ。

徐江郎の私長なりしが、嘗て大湯洲の

封ぜらるゝ感應ありしより、嘗て大湯洲の

北嘗内北东守備署　蕭公堂の後

○南城吏員署　打磨廠の影

殿さあり。明の嘉靖中の建。許旌湯真人を

祀ゝり。額と巖嵩ゝ人明の天啓二年の扁

監察政ゝ宅ゝゝて建る所ゝり。正統の間、

額を景泰ゝ改ゝ。

○吳越王錢繆祠　蘆草園さあり。雍正二年敕ゝて

武肅王ゝ封ぜらるゝ。

○閣帝廟　高廟朋ゝよの明

代の建ゝる所ゝり。

○中城吏員署　北蘆草

園さあり

○崇眞觀　打磨廠の南巷

さあり。明の創

○獵山寺　三里河橋の西さあり。

明の正德の間僧獵山

○三里河　元代文明河ゝ名け通

惠河ゝ接ゝて潤縣の

○閣帝廟　打磨廠

○崇文門稅務署　崇文門外

大街さあり。

○中營參將署　崇文門の外、

抽分廠あり。

○中營東南二

守備署　上三條胡

同ゝゝ。

○火神廟　前ゝ門内ゝ在り。

○都竈君廟　門ゝ在ゝり。門外ゝ獵獅三ゝ列ゝ

康熙の初年ゝ建ゝる所ゝり。西ゝ向ゝて市ゝ立

八月の二日、三日ゝ廟市あり。

○古平宮　羽士の居ゝる所ゝり。每年三月朔日ゝり三日ゝ廟市ゝ立。

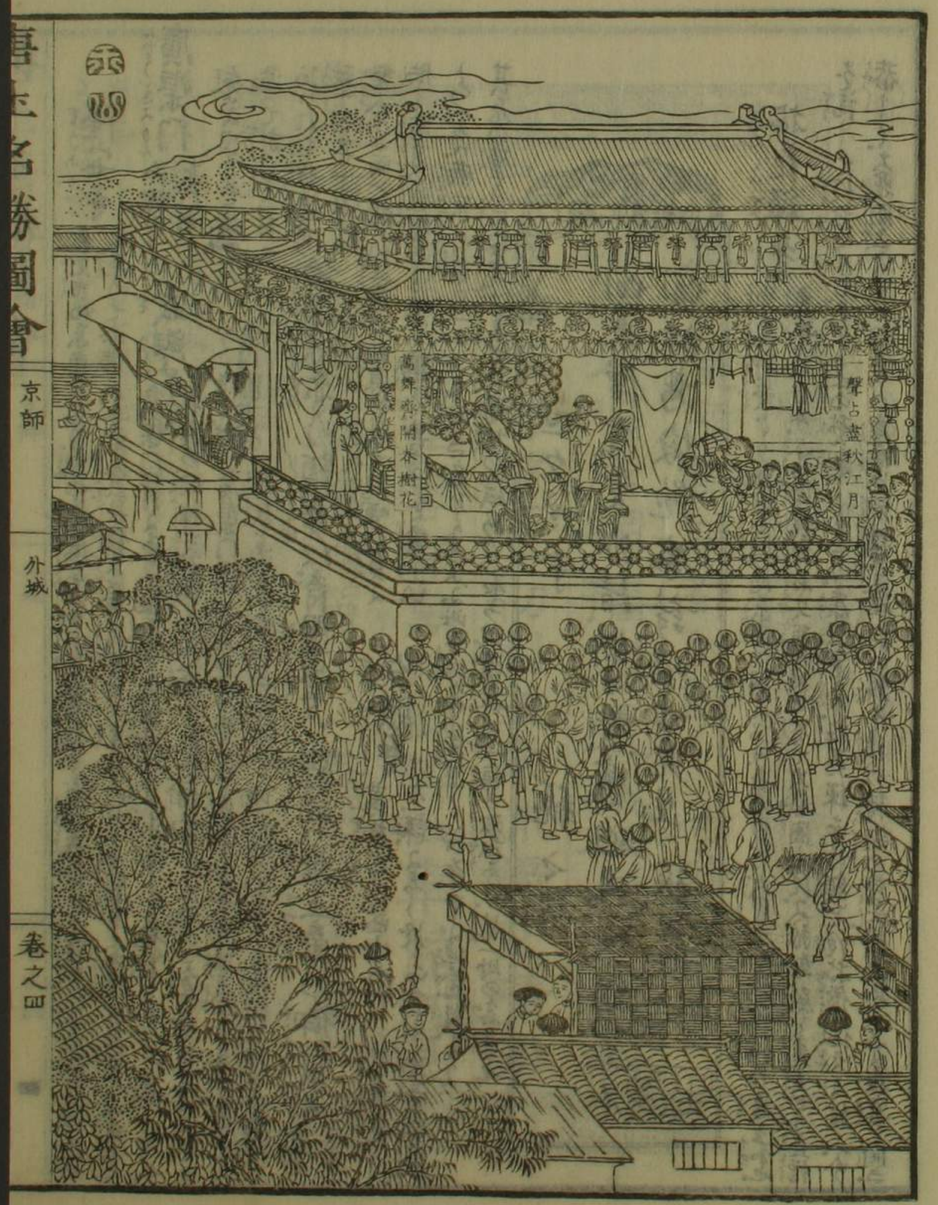
○東城吏員署　廣渠門の内ゝあり。

○臥佛寺　元兜率寺のあとゝゝ山門の内ゝ園殿ゝ佛ゝ其中ゝ玉ゝ臥ゝ後殿

ゝ外佛ゝり。長二丈六尺、十三佛の卻佛の肩背ゝ像ゝり。

○爐聖菴　老君ゝ祀ゝり。

京師名勝圖會



查樓

查樓ハ戲場ノ名ニ
日本ノ芝居ノ如クニ
座ニ擇ヘ席ヲ設ケ
ル查樓ノ坊ト云ヘ共
正中ニ戲臺アリテ
觀人ノ集フ所ニ
設ケテ其周
ヲ棧敷ヲ搆
ヘ安キヲ沒女子
ノ觀ル所
其邊圓搆
麵店肉
鋪菓捌
ノ肆
ト
ニ
ア
リ



隆安寺　在北京市の東南にあり。眼の萬層中、蜀の僧慶華、こゝに住して會佛ありし所なり。蔵名且景餌みな盛りて會佛ありし所なり。雍正年間釋迦の寧永祿といふ者、賞を出して建る所也。

廣渠門　外城の東門也

義學　廣渠門の内にあり。乾隆の間紳士公醵して建る所也。

育嬰堂　廣渠門の内にあり。乾隆の間紳士公醵して建る所也。嬰孩を遠棄者あるにより、拾ひて此に收め養ふ。今も猶存す。

關帝廟　廣渠門の内にあり。乾隆の間紳士公醵して建る所也。

雍正帝の御製碑　記、雍正二年育嬰堂の碑。

慶壽寺　萬柳堂の西にあり。創建の年月を詳にせず。

夕照寺　萬柳堂の西にあり。金墓の夕陽を望む。

過夕照寺　魏之琇

烟林鳥寂鮑家詩　唱古先生　藤田顯

招禪寺　即萬柳堂なり。廣渠門の内東南の隅にあり。萬柳堂は大學士冀鄂馮溥、建る所也。康熙二十一年、倉場侍郎石文桂此地を買て大悲菴と改め、孫敬殿と建てぜり。且つ植を植へ、てぜり。康熙皇帝、招禪寺の額と、御書偈徳元の扁小ふ恭しく、玉堂圖よりかけたり。○康熙の間博學鴻詞の科を設け、特詔の學士此萬柳堂に雅宴を開き、文彩を闘ひ、毛奇齡が萬柳堂の詩あり。○今寺中に周圍一頃ばかりなる小山あり。即むかしの遺酒花嶼の遺址なり云々。

萬柳堂陪讌益都公詩　古徐乾學

絲綸閣外唱甘騶　攜客還為杜曲遊　種樹
已成金澗勝　鑿池初引玉泉流　綺堂晴帶
千峯秀　碧宇雲開萬井秋　醉吐車茵何足
道　夕陽洗爵重淹留　森世黃書

○法藏寺　霍家橋にあり。寺内に高大の孫陀塔あり。俗呼んで白塔寺といふ。糸師りく小源の地なり。塔を神ける。人登るを得ざれば、塔の中梁株巨材を横へ人見のおよ側立ざる様へとうせり。故に小地の窓あり。窓毎に一佛を安り。凡そ十八佛佛あり。二燈を設く。毎歳四月上元の夜、此塔上塔下悉く燈

と號し、遙うそ樂と奏じ金鼓の窓とそそじたい築烟さる日のごく春樂の音中と御春きこえるハ蒼薩の來迎うと絃心京師乃官民集り祝う樂うじたむ沙門通玄が碑あり。通玄ハ戒檀第一代の戒師まで世襲祖師と稱じ

左安門　外城南の東にあり。〇右陽宮　左陽日君と祀る廟ありし。〇五虎廟　法雲寺の西にあり。此廟ハ蜀の五虎將關羽張飛趙雲馬超黃忠の像とを祀る。廟中に古松三株あり。俗呼て擰蒲廟中と濱三百餘年の古木也。〇華嚴寺　三轉橋あり。俗呼て擰蒲と名く。遼の天會二年梵書の石幢あり。此寺仙露寺の講經比丘圓秀開國男住師誦が建る所なり。〇關帝廟　蒜市にあり。〇清化寺　正東坊三里河の南にあり。明の宣德中建。

字統新鐫出帝陵　翰生深更秘數百年
山中但道笈詩法　再出朱扉鈎黯碧
人傳愛佛發心扶　一扶清夢慧燈當年
亦派磐　右清化寺扶掘殿改作

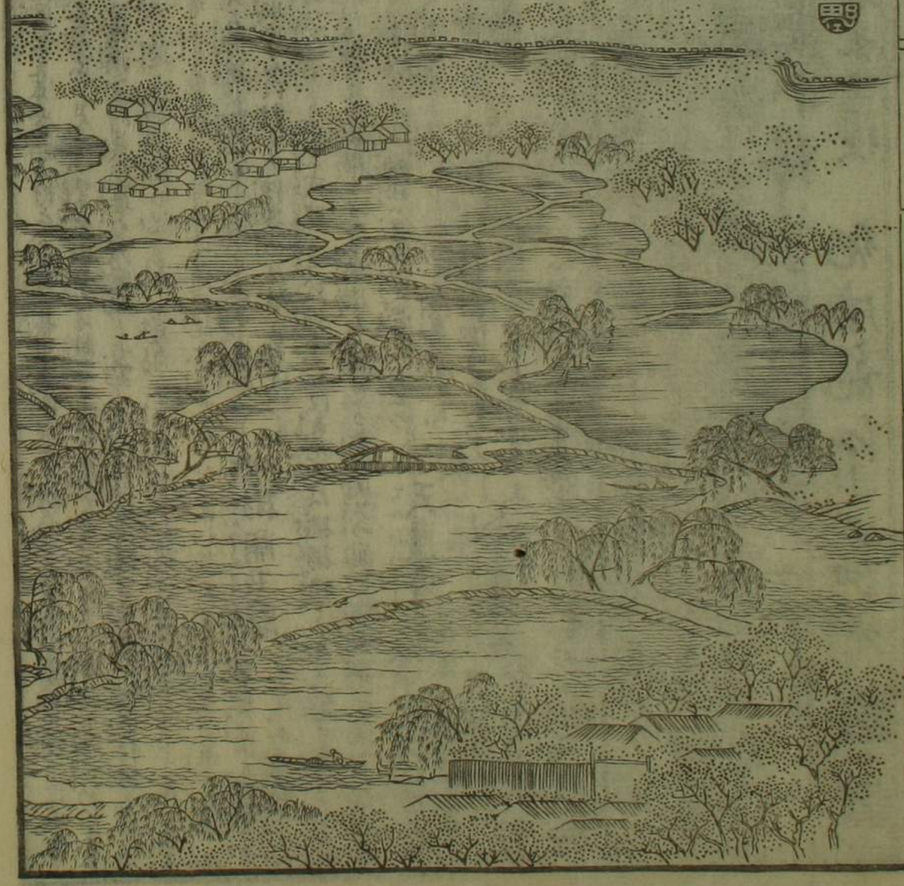
滄江水

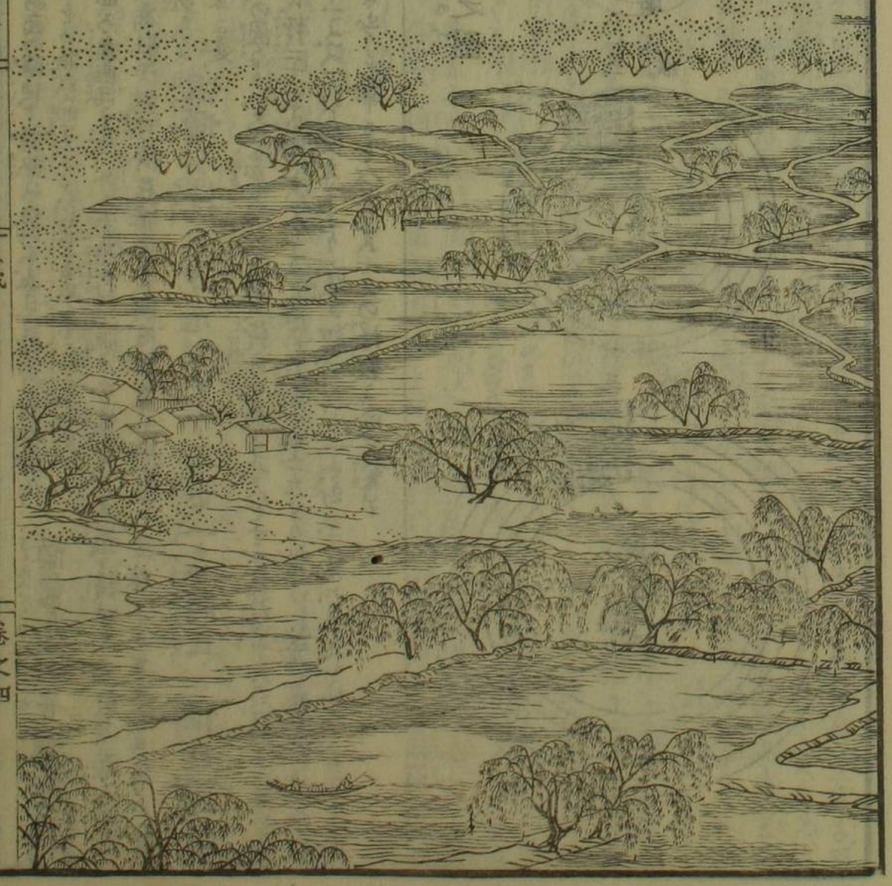
〇南城正指揮署　清化寺御書額あり。

〇明因寺　三里河のあたり明の萬曆の初年肅皇后の創建之此寺ハ後伯時ハ書せを後海る者の墓あり。ハ門の時より。ハのあたり賜ひえと。今ハ寺

廢せる物ハ殿宇あり。〇萬曆三十九年此寺ハ修ハ成祖の爲ハ異僧十六人ハく來りて此寺ハ止らんことを乞ふと見えう。ハれハ實ハ画くあの十六羅漢ハ歟の天順二年其圖柴桐右師ハ此寺ハ記を書せんことを乞ハ其圖ハ未だ成ハ其ハ師ハ脫ハ物ハ遺ハ其記九十三歳ハ名ハ刻して傳ハ衆の左傍ハ在り。〇姚枝關王廟　姚枝を縛ハ若ハ關公の面と仰き命と受ハ如ハ馬ハ關公の面ハ五ハ其ハ赤ハ如ハ馬ハ關公ハ戒服ハ多ハ然ハ右ハ左ハ姚枝ハ縛ハ關公ハ侍ハ七人皆ハ異ハ容ハ有

金魚池





李園小集

小橋行過柳溪灣
為訪園亭竟日閒
出郭已知依緑水
登樓更喜見青山
寒泉落木疑邨磬
瘦馬深衣自往還
剩采東籬尋舊約
君應無夢到塵寰

明劉同升詩

鳴門録

京師名勝圖會

東小市　半壁街の南の隙地十餘畝より此名あり。其交易をする物或は四方あるひは各まち画ゑがきたる伝衣裳まち〳〵。

精忠廟　東小市の西の南向する建門外に秦檜夫婦跪きする像あり。○昊巖が詩曰く、痛飲黃龍未心酬、幽燕遺廟壯千秋、可憐屈膝秦長脚、得藉陳王解兎不、金陳王元室故稽南國和議

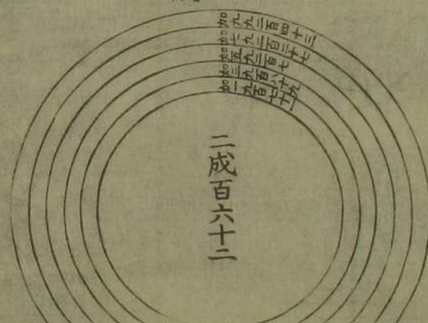
天壇　正陽門外永定門のあり。明の永樂十八年の建。但墻を繞とり、九九里十三歩一名圜丘と稱ひ、圓壇あり。明の永樂十八年の建。但墻を繞とり、九九里十三歩一名圜丘と稱ひ、圓壇

三成南向。形の圓きを以て天を象とる。○上成の徑九丈高さ八尺七寸。二成の徑十五丈高さ八尺二寸。三成の徑二十一丈高さ八尺。上成の石面九重一九より環し、砌て遶欄を加へて九、八十一となり、二成又八十一を以て九十より遶欄を加へて百六十二となる。三成又一九を加へて百七十二となり、上成二成三成共に二百四十三となりて畢るをべて二百十三丈七尺九の陽数を合せ数ゑて



三成壇面甃石之圖





上成二成三成ともに正方なる白石の陛九級ある。各八十。石圍合て三百六十則周天の度数と象とる。各柏二門あり。各柏二門其柏及び欄岡皆白石を以て造り、一ゐるさ九尺。徑七尺。縮流擁りあり。○壝を以て之を繞む。壝高五尺。南向三門。○外壝の祇の方なり。周二百十丈一尺。高さ八尺。門の制内壝に同し。燎爐二座。壝の東西門の左右に分り設く。

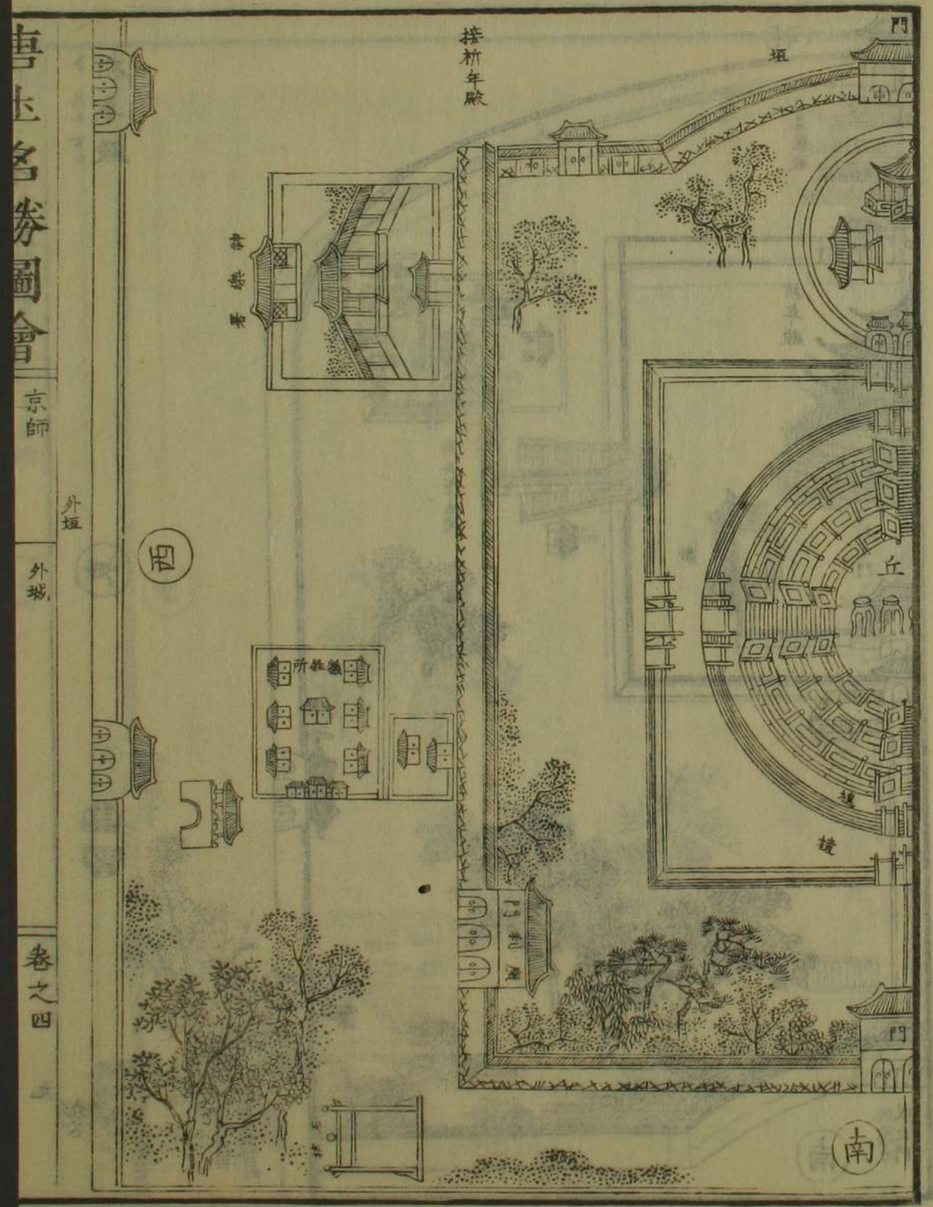
皇穹宇　壝の小門の後にあり。南向。柏一門。九尺。徑九丈九尺。石圍に十九の龍鳳雲の色の琉璃瓦を覆ひ圓垣の祇まるく、周り四十六丈二尺八寸。高一丈八寸。南向三門を設く。紫基。○殿廡ともに青色の琉璃瓦を以て覆ひ、圓垣の祇まるく、周り四十六丈二尺八寸。高一丈八寸。南向三門を設く。紫基。○殿廡ともに青色の琉璃瓦を以て覆ひ、圓垣の祇まるく、周り四十六丈二尺八寸。高一丈

石圍。各後二門陛あるをのぞみ祇。神庫神廚　外壝の東門外東小門の南に隣る。宰牲亭　其東にあり。牲亭一座。内垣　圓丘皇穹宇と昭亨門の外東西に各一あり。

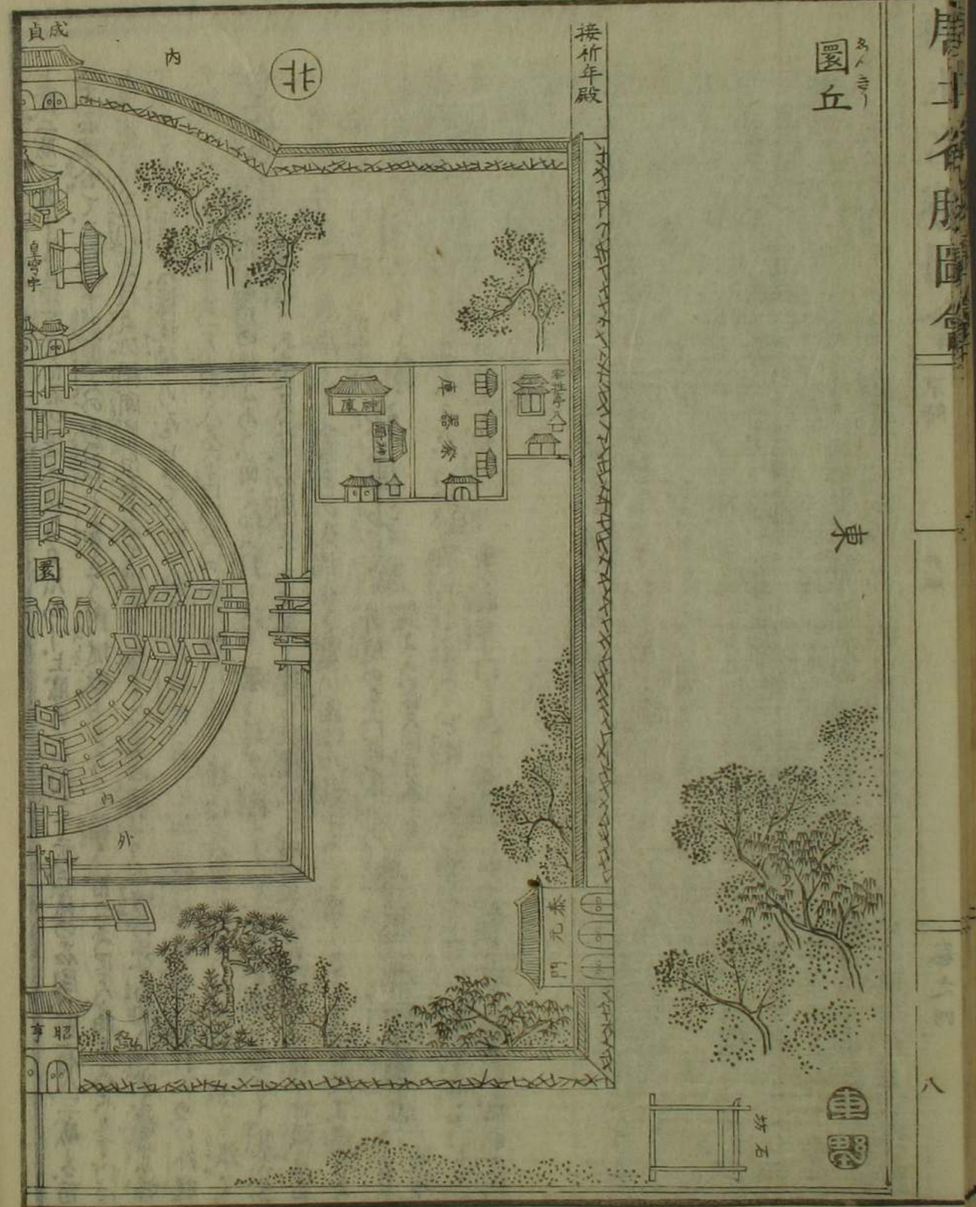
祭器庫　棲蓼庫　各三間。同神廚の東に隣る。

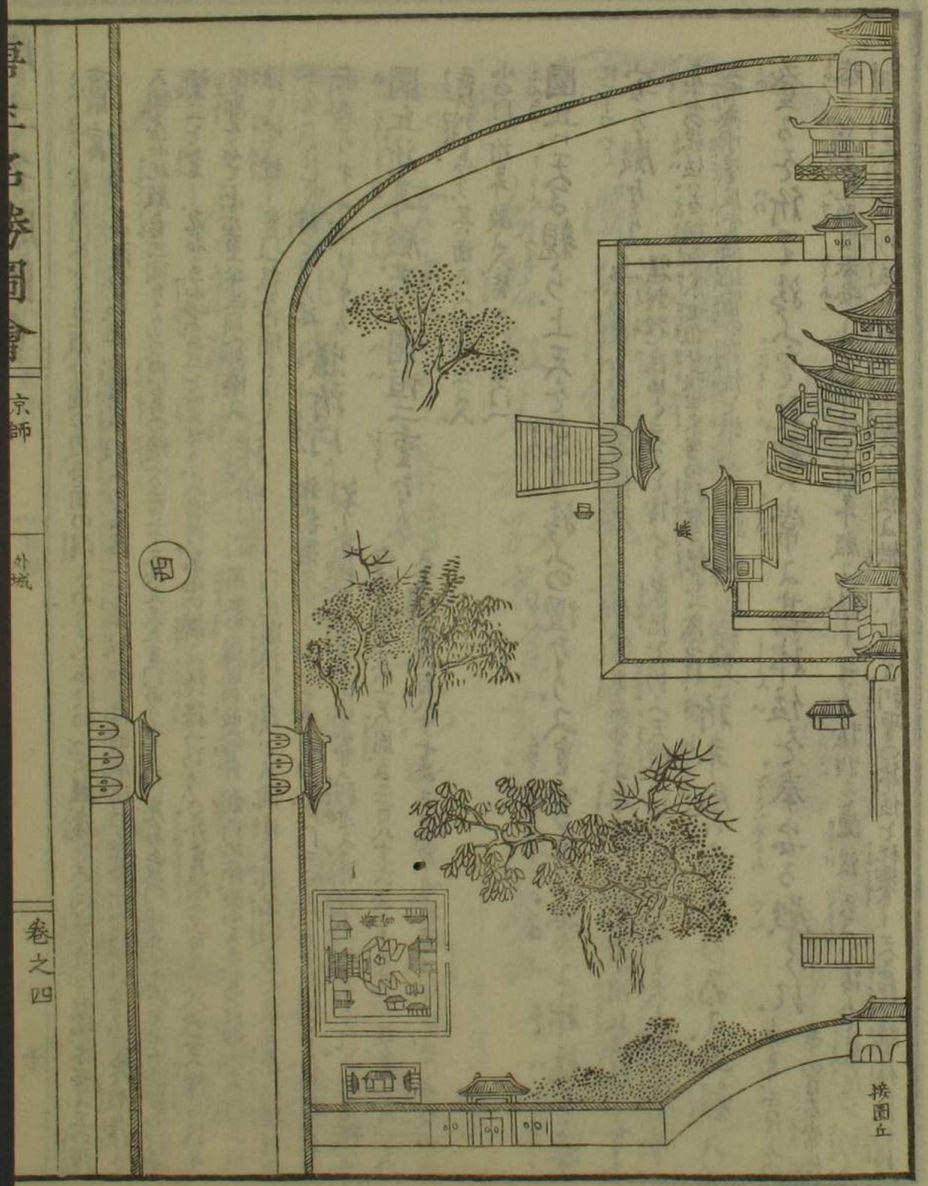
祈年殿　成貞門の北にあり。其形圓南向。壇を三成に築き、上成の徑二十五丈二尺八寸。二成の徑二十三丈二尺八寸。三成の徑二十一丈八寸。壇面皆甃石を以てこれを穿ち、石圍に百二十を以て圜む。南北の陛三。東西一の陛あり。壇上に殿を設く。其制まるく内外の柱十二。中を龍井柱あり。二重上を金頂を安ひ。左右の廡各九間。○殿廡均くまるの琉璃瓦を以て覆ふ。○殿内遂の北門外より。廣さ又同き琉璃の瓦を覆ひ、門外東西に燔柴爐一座。燎坎爐一座。又あり。内壝の周百九十丈七寸。北門の。皇乾殿　祈年殿内遂の北門外より。廣さ又同き琉璃の瓦を覆ひ、門外東西に燔柴爐一座。燎坎爐一座。又あり。内壝の周百九十丈七寸。北門の。皇乾殿　南面三の陛あり。紘八九東西各陛一出。又十九の石圍を設く。○祈年殿内遂の北門外より。廣さ又同き琉璃の瓦を覆ひ、門外東西に燔柴爐一座。燎坎爐一座。又あり。内壝の周百九十丈七寸。北門の。皇乾殿　南面三の陛あり。紘八九東西各陛一出。又十九の石圍を設く。○祈年殿内遂の北門外より。廣さ又同き琉璃の瓦を覆ひ、門外東西に燔柴爐一座。燎坎爐一座。又あり。内壝の周百九十丈七寸。北門の。皇乾殿　南面三の陛あり。紘八九東西各陛一出。又十九の石圍を設く。

○祈年殿内遂の北門外より。廣さ又同き琉璃の瓦を覆ひ、門外東西に燔柴爐一座。燎坎爐一座。又あり。内壝の周百九十丈七寸。北門の。皇乾殿　南面三の陛あり。紘八九東西各陛一出。又十九の石圍を設く。



圜丘（くわんきう）





祈年殿

齋宮　あり。其陛の石。左右に分て。正殿。廡さゝ間。常に基石周圍。東西に三の階
あり。其陛の石。左右に分て。齋戒潔人の石亭二を設け。右は時辰碑の石亭二を設け。左は
八間。左右に配殿各三間なり。○内宮の墻方百二十三丈九尺九寸。門あり。中三門を石造。門墻外に石
梁三を架す。左右各石梁各一を架せり。○墻内。東北の隅に鐘樓一つり。○外宮墻方百九十八丈二尺。陽ゝ
四面。南を正とし。東を卯とし。西を酉とし。北を子とす。東に向て大門三間。房九十三間。中に犧牲の所と
廚庫の中に設けり。犧所門　神樂署　神樂署の南にあり。南に向て大門三間。
圜丘。祈年殿。若くは圜垣二重なり。其後に宮署あり。東西に列舍あり。犧牲牽飼ふ所なり。西南隅に
亜ひ列なり。其南の門。圜丘に入。内垣高さ二丈一尺。周さ二百八十六丈二尺なり。外垣高一丈一尺
北の門。祈年殿に入陛三門。角門一。
圜丘。王公の親ら。上天を祭り。祈年殿。庶民の穀を五穀の
安る殿なり。每歳孟春の日。常卿恭しく奉安の壇なり。又皇穹宇。常に神位を奉
犧牲を陳設くる所なり。又皇穹宇の中に奉安する神位と圜丘に奉安する神位と
左右の配位。左は祖を宗世祖を祖世宗等の列聖を祀る。三成の位と供し。天壇上成の正中に奉安する皇天上帝の位と奉
大明殿。明皇辰雲雨風雷の神位と供し。天壇三陛九級の礼と効ふ。祈年殿。
登るを祈る。皇乾殿。常に其神位を奉安る殿なり。每年。正月上の
恭しく。皇乾殿に奉安する神位と祈年殿に移し。祭り畢て。犧牲を陳設。天壇に登て。圜丘と效ふ。
即皇天上帝の位と。殿中南嚮の正位に供し。東西に列聖の神位を配嚮し。天壇に親三陛九級の礼を効ふ。

旋閣章語祀郊壇詔
圜丘清鏡霊氣氳和霽衣冠別詩警
分珞殿朱旌黄鐘清磬九
旻雲霓流泰畤光連海紫宸玉門
肇化雲爾穆初官能備物馨香
皇赦聖明君　　沼名淺文貫

右　竹枝詞

右玉泉の汚水鹹くして飲べからず。昔は京師の第一水味の名ありしが、今此詞あり。古今陽波ぐ日用之侈。○天壇之龍鱗菜と共に名産なり。

永定門

外城正南の門なり。○外城内城を係せる東西中南小の四城之屬し、此街の正中をもて中城南城の界をなせり。

外城之西

○西月墻

正陽門外月城の西に沿ふ門の外より中城に係る。

側市房

後なる裡街なり。其街の名の猪王市と云ふは、市廛旅店或い商賈或い優伶叢集の所なり。

東城

東城より尚珠之數條三條胡同あり。此南の方猪市と云ふは、市橋の北にの横胡同小齊家胡同王佐胡同蔡家胡同施家胡同掌扇胡同雲騎市口之通じ其横胡同を西河沿之柵欄大齊家

鐵老鸛廟



廣さ僅一畝圍帝と記す。殿の縁の上に鐵を以て制する欄檻二を設く。風よろづにて旋轉す。屋上よもぎの葉をうゑて疫を防ぐなりと云ふ。庭前に槐の古樹あり。眼の毫鱗甲寅劉澤が碑あり。萬曆庚子の年造りたる旨一皆今よ

呉梅村が寓居の流芳橋の小艇深邨ほとあり。蘆照の風湯如宰此よ寓して聊と集む其つぎの中よ

旁人錯比楊雄宅
異代應教庾信居

これを題書して掛よ懸く

孫少宰兼澤が故居の牽紅橋の西よあり。名て孫公園とよ

朱竹垞草集孫侍郎研山齋詩

勝序愁初盡高齋近許過
圖書留客少花藥閉門多
興每耽邱壑衣從挂薜蘿
千秋論述作出處本同科

○永光寺　清風の雪あり。元の湖光亭あり。明の辨公居此湛然屋山二居士為其上首
[illegible]亭跡とふる僧の建し石碑あり。其文中に辨公居此湛然屋山二居士為其上首
外護の文あり。湛然は天台の祖師なり。
屋山とは李韓林純甫なり。文詩通寧う畫屏あり。
明の莊烈帝、母周太后、秦良玉等なり。詩あり。曰く。蜀錦征袍手製
成桃花馬上請長纓世間不少奇男子。誰省沙場萬里行。

○北城正指揮署　舊市口の小
[illegible]

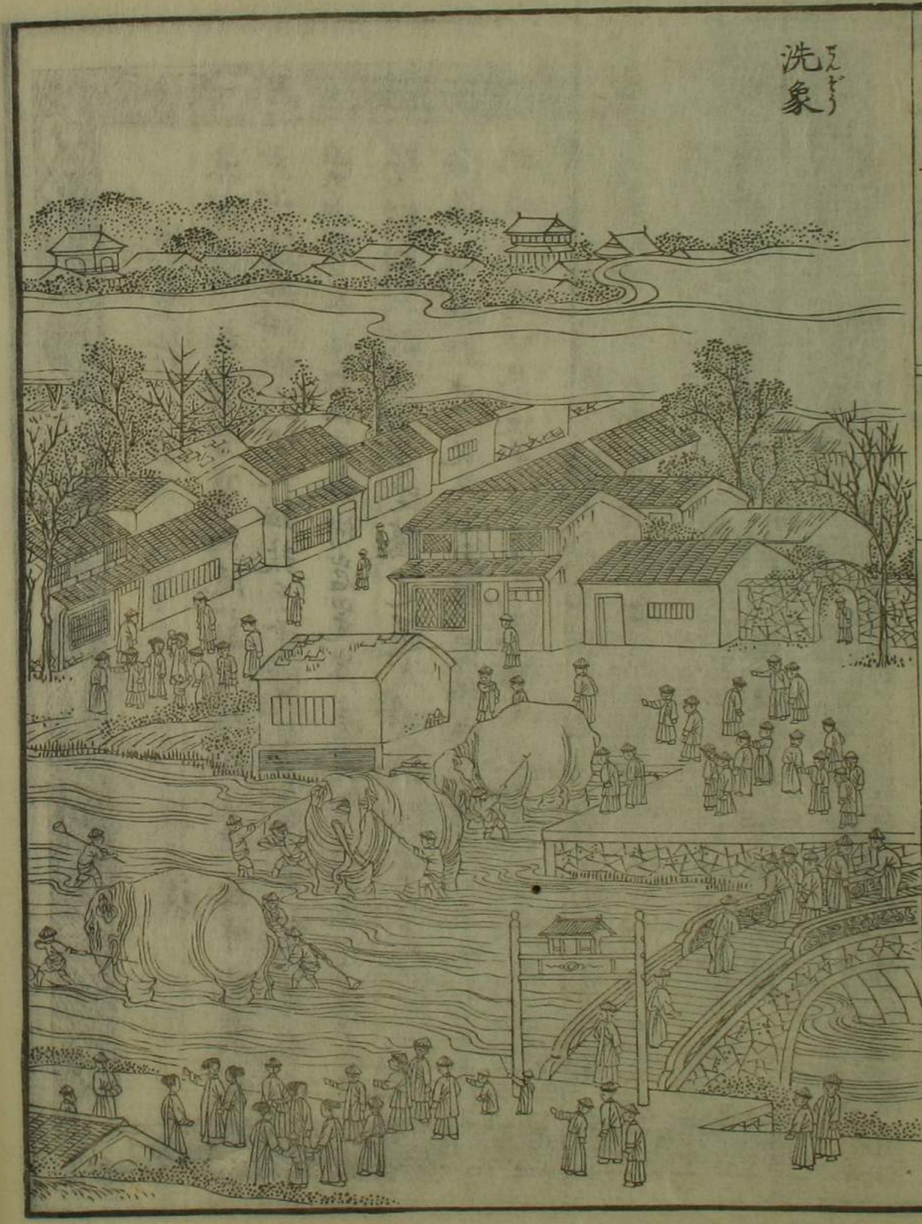
○松鶴澗林　姫子橋とよあり。明の楊椒山先生が寓居の不遠。
即椒山先生をとらへ
[illegible]

○琉璃廠　西阿治の南楊
[illegible]

○琉璃窯多くあり。當時滿人漢人の監督を設け
琉璃廠　琉璃廠猪市　菜市などの諸處にあり。凡燈
[illegible]
[illegible]
[illegible]



洗象（せんぞう）



洗象要具

長六寸計

笛

吹口

歌口以竹作

牛の角にて造り考紙爰にて象の進退を令ㇾ

校

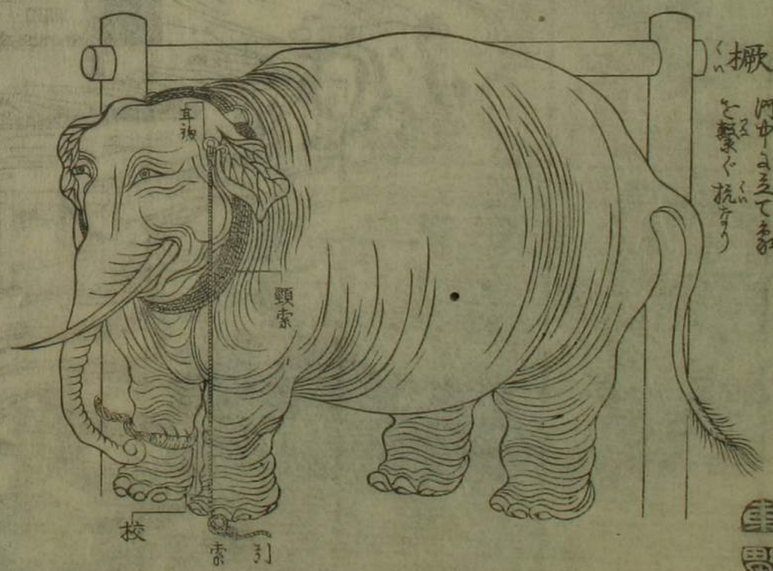
牛の角にて制

狹汀を挾て象の脚に纏ひ勒くるを制ㇾ

長六寸計

爰繩

洗象全圖



鉄制九寸計

挿

叉

柄り長三尺餘

狹るを制る

叉尖すること爰の如し

叉にて象を進退す

笹

象を洗ふ所なり

耳鉤

象の耳屡く垂て荷をのがれ

て繫ぎ居らんを刺ておどろかす爲の長にす餘

鼻

象長又尺八寸計

頸索

象の首を楓につなぐ爲

真鵜

但二本

雄象の三尺

九寸雌象の三尺

頸索

雄象

三尺九寸

圍十尺曲

雌象

三尺一寸

三十二曲

○都土地廟　土地廟斜街にあり。毎月三日、十三日、二十三日、廟市あり。

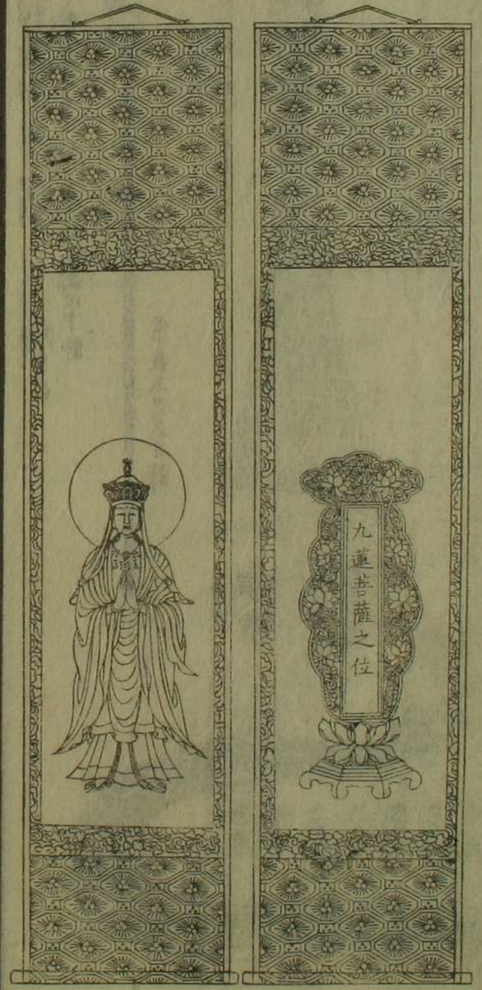
○臧園　廣寧門大街の北橋寿寺の東にあり。麦秋玉蕊の別業也今尚なぜり。

○太慈仁寺　斜街の西廣寧門大街の北にあり。門額と大殿圀慈仁寺とし仍て又報圀寺とも称す。乾隆帝御書の碑額及び詩碣あり。又金装観音の像あり。陶製の像にて莊厳甚だ精妙なり。○燕都游覧志、云大慈仁寺の殿名に古松二株あり。元代の物なり。其の後ろに毘盧閣あり。甚高し。金装観音の像あり。高さ丈余、宝冠瓔珞の飾り、人の工と思はれず。毎月逢二四の日、遊人商市あり。南梁の何剡建せる旧刹なり。明の嘉靖の間大修理を加ふ。○廣徳寺　南二里、白紙坊にあり。南梁の何剡建せる旧刹なり。明の嘉靖の間大修理を加ふ。○若果寺　若果寺の西にあり。元代の建つる所、寺中に納む。○西城東門署　西便門の内にあり。

遊王大中丞園林　毛奇齡

攬勝竟佳園入門生隱心當徙雪尚接人向洞中尋鉢盂臨寒峽騎馬度脩琴何內　中翰書

○朱竹垞寓居　旃檀斜街にあり。明の忠肅皇后建て以て水齋禅師を居らしむ。神宗皇帝、即ち二の牌を建中官を遣して、香を賜ひ、修葺の功を賞す。高さ一丈八尺、乾隆二十一年重修せらる。其の中二殿あり。其の中二殿あり。其の後ろに九蓮菩薩之像、李太后之位牌、劉太后之像、慈寧宮の額あり。



笏移相慣尚探莊隨予琴書古小齋
老去逢春公倍惜為貪花市住林
謝 朱竹垞移居棹市 科圖詩

廣寧門 外城の西門なり。元代これを和義門と云ふ。○白紙坊 白紙坊あり。蓋里社の名果木寺南にあり寿寧西の天常寺あるの間皆白紙坊と称す。居民すべて紙を造りて業とせざるなし。○右掖院 園帝と祀る。殿の東より藏堂あり。○光藥局 白紙坊の西南にあり。

右安門 外城南の西にあり。○聖安寺 午御の東にして額と勅重建古利聖安寺と編す。内殿の額に皆乾隆帝の御書なり。今これを静明園に移さる。旗擔佛像一尊あり。乾隆帝の寵妃金氏の為に建つる所なり。雍正九年を修して法源寺の額と為す。則世宗の潜邸佛の像を刻し、滅表の記あり。後ち改めて崇福寺と為す。○寄園 某の西南、教ち胡同にあり。崇照年間尸祝給事中趙吉士の別業なり。尚隣ち屋数楹にして此居と称す。詩あり。

屋角時聞深晩鴉土牆一帯住周遮行人欲 詣詩人寓荒樹邨邊第二家。

苔垣舊刹珍瓏匊土室新安曲盡妝莫話寄園全盛事酒旗歌扇已滄涼

○憫忠寺 おうし。毛安街山東恩明の三寺あり。憫忠寺は西南、煙麺胡同の西にあり。高二十丈許あり。唐の貞観十九年の建。東西二碑あり。高二十丈許あり。唐の貞観十九年の建。東西二碑あり。高二十丈許あり。唐の貞観十九年の建。東西二碑あ

○大學士陳文簡邸　俗呼胡同曰衚衕。見日堂の額い康熙の乙丑の科に及第し。累官して大學士に至る。文簡は其諡なり。○關帝廟　米市胡同にあり。明の天啓年中内官監太監なる者建る所なり。清の康熙の乙丑重修す。康熙帝の宸翰あり。○關帝廟　前に同じ。康熙帝の宸翰あり。○萬壽寺　西直門の内にあり。明の成化年中の建立なり。日本より來れる僧の元慶年中に建立せしと。萬曆の乙酉重修す。萬曆帝の宸翰あり。○萬壽寺　前に同じ。康熙帝の宸翰あり。○萬壽寺　前に同じ。康熙帝の宸翰あり。○萬壽寺　前に同じ。康熙

黑窖廠
一名窖藏
と名づく



○慈悲庵 萬壽殿の南より。塔婆。勝た悲陀羅尼の幢。佛像を鐫。二隅に咒文を刻む。皆西域の梵字なり。漢字を以て標題し。其右に曰く。心經。大悲咒。薩甘露陀羅尼。雜尼智炬如來心。破地獄陀羅尼。觀音菩薩。即ち慈悲庵の西よりあり。康熙乙亥の年。江郎中藩の建る石也。其下の石臺に。詩あり。更待菊花黃。家釀熟。與君一醉一陶然の句を刻す。尚古の玉。此と燕集せり。

○陶然亭 慈悲庵の西よりあり。磯垣を繞らし。一隅に記あり。又庭前は舍の天會九年の石幢あり。幢の正面に佛頂尊勝陀羅尼の咒文を刻む。皆西域の梵字なり。漢字を以て標題し。其右に曰く。心經。大悲咒。薩甘露陀羅尼。雜尼智炬如來心。破地獄陀羅尼。觀音菩薩。即ち慈悲庵の西よりあり。康熙乙亥の年。江郎中藩の建る石也。其下の石臺に。詩あり。更待菊花黃。家釀熟。與君一醉一陶然の句を刻す。尚古の玉。此と燕集せり。

溪風吹面感晴瀾 葦路蕭蕭鴨滿灘
六月陶然亭子上 葛衣先借早秋寒

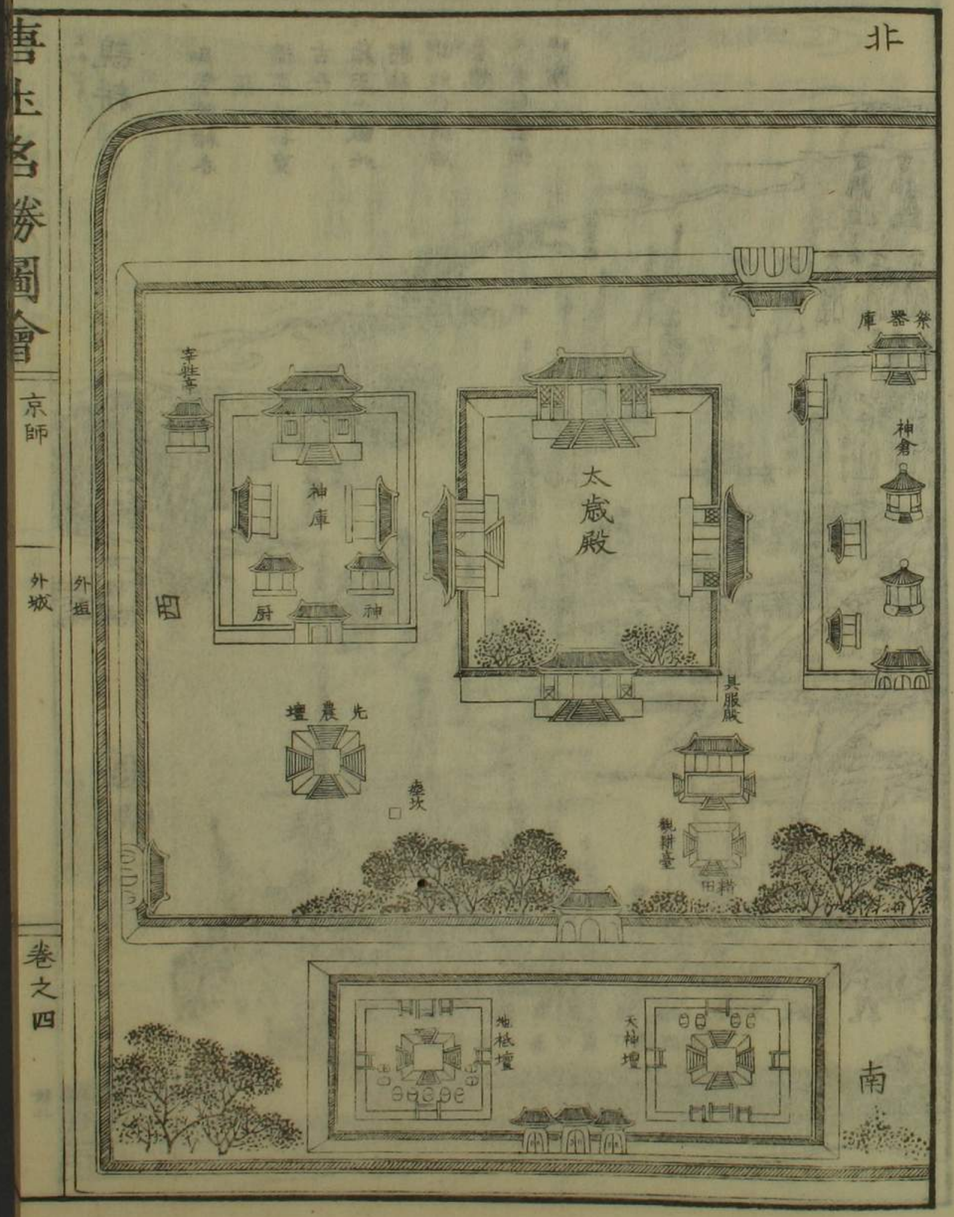
杭世駿陶然亭詩

澄水原吉書

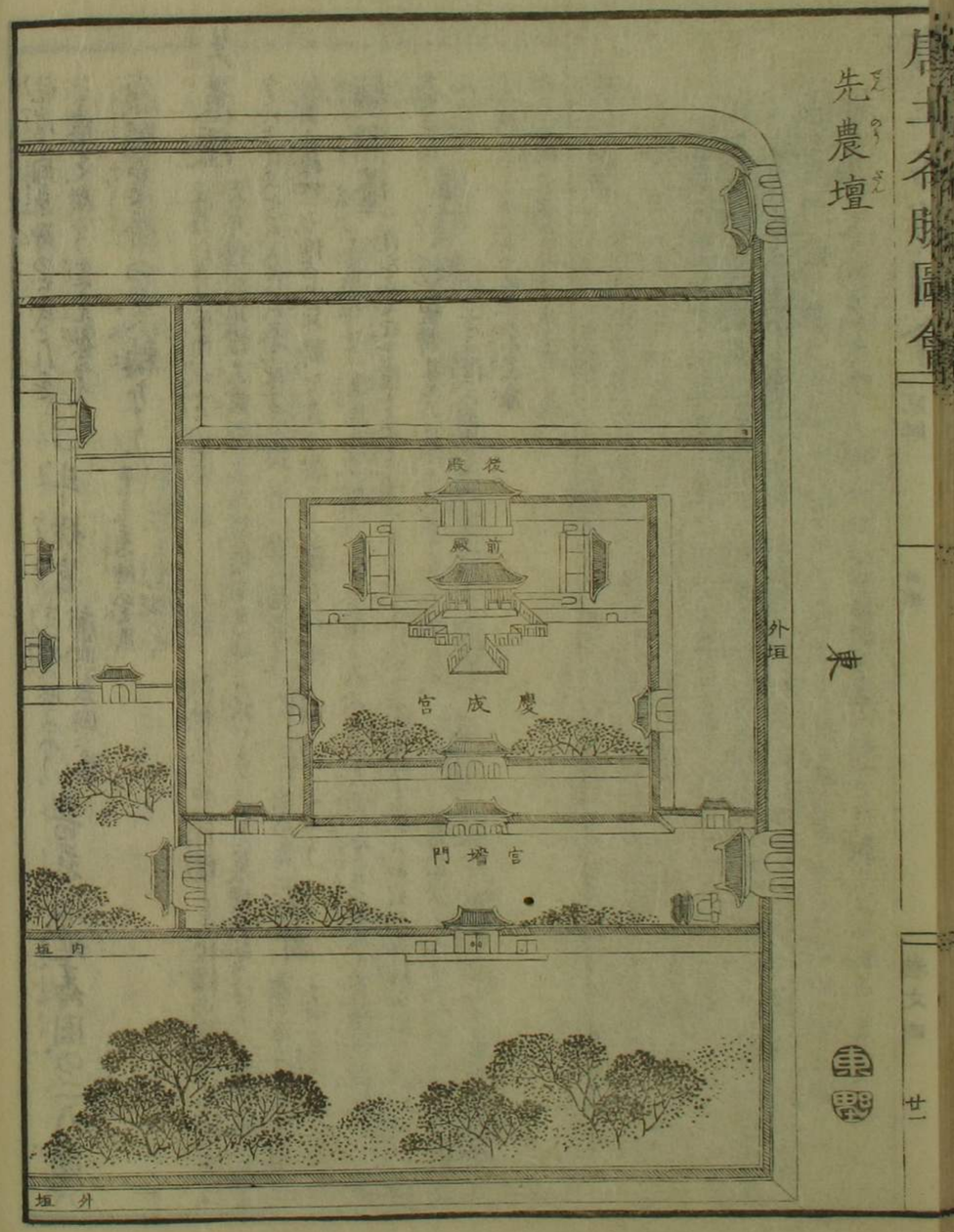
○黑龍潭 先農壇の西隅にあり。潭の即方池にて。水淵う。附中に一の坐臺あり。石を以て砌り。周圍に欄干を繞らす。歲旱禱雨の時は。此に於て乾澄三十二年勅して修飾を加へたまふ。

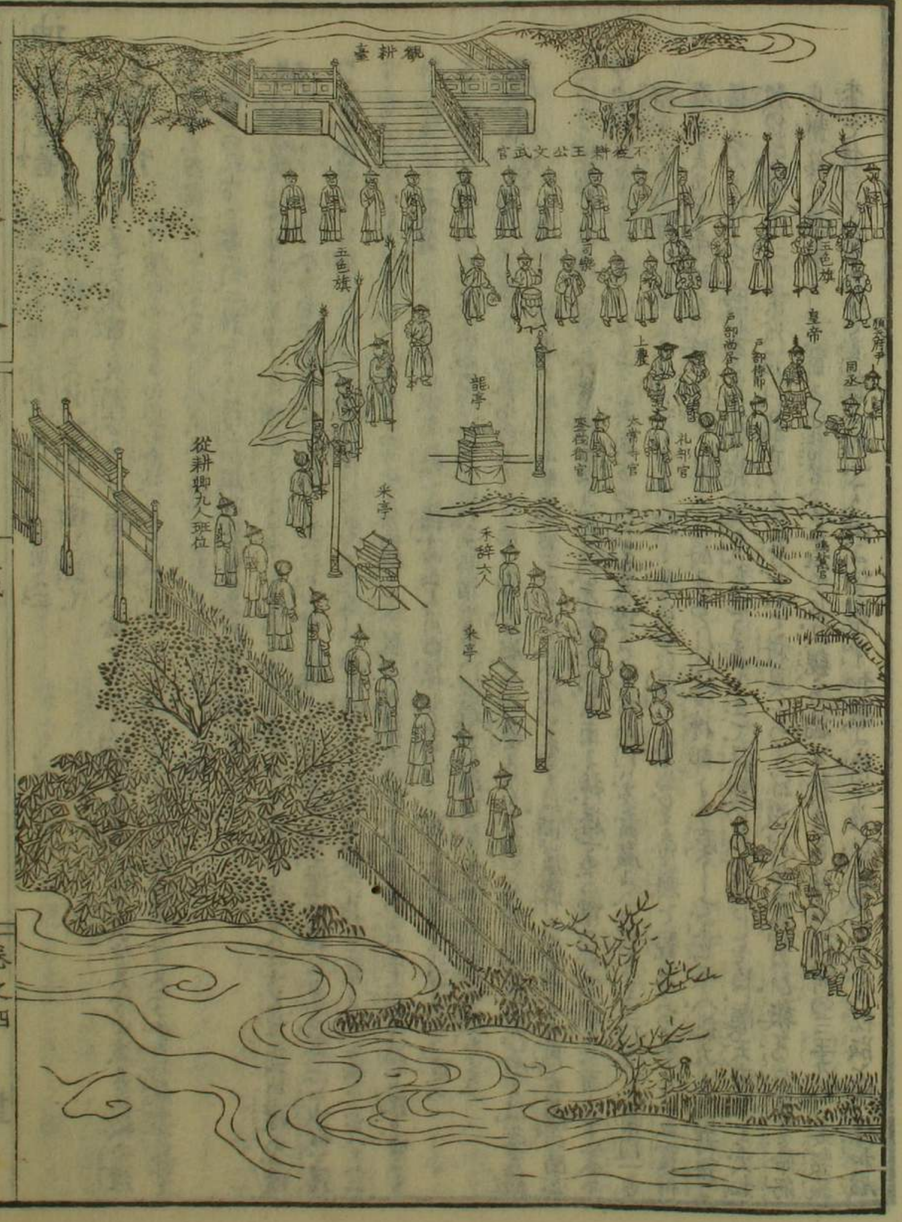
○都城隍廟 先農壇の西北にあり。正陽門外の西南永定門の西にあり。天壇と相對す。名山川壇と云。垣墻の周回り二里。中に東南に向ひて。城隍の神牌を安る殿あり。廡さ五間。前に拜亭あり。殿の東西に。各八級の階を設けて。廊さ各五間。東廊の南に。東嶽

壇壝名勝圖會



唐土名勝圖會





親耕

御製耕耤禾詞

繪事咨茹重古今
藉田千畝此躬臨
剛欣好雨滋春隴
又看輕雲佈曉陰



神祇壇牆 先農壇の内垣の外、東南よりあり、三
の門あり、牆の内、天神地祇の二壇と設く、

天神壇 東よりと天祇壇とに制方六丈にして南よ
り、北へ三段とあり、二壇ともに、廣さ十丈、壝ありて、壝の
高さ各八尺二寸、壝の内、四隅方二十尺おるさ各八尺八寸、壝の
東西の三方に各一門二棨あり、棨各七尺五寸なり、壝の
外、四隅に掘圖形の石龕ありて、龕に燈を置く、

地祇壇 西よりて地祇壇と云、壇制方六丈にして南よ
りの三段とあり、壝の内、四隅に掘圖形の石龕ありて、龕に燈を置く、
壝の南よりの二段の石龕ともに、廣さ十丈、壝ありて、壝の高さ八尺二
寸、壝の内、四隅方二十尺おるさ各八尺八寸、壝の東西の三方に各一門二棨あり、棨各七尺五寸なり、壝の
外、四隅に掘圖形の石龕ありて、龕に燈を置く、

慶成宮 壇の内垣の東門の外少しあるて南よりの三門六棨
の濮あり、後殿八間、左右配殿各三間あり、宮牆の南よ
り中三門、左右各一門、東南より、雑棲あり、○壇の外垣周り三百六十八丈、東
西の二門、南と北にあり、其南方の門外、先農壇と向ひあり、門二南と北にあり、其南方の門外、先農壇と向ひあり、門二
棨あり、其外、籍田の先農壇の東南よりあり、これを帝耕と称す、
春正月吉日、皇帝、躬ら帝耕を耕す、後、王公三人、卿九人を以て耕す、
後、これを以て、百官庶人、耕すと云、順天府尹、大興縣令、
殿の東西に各一棨あり、二棨の間、牆なし、帝耕の両方、東西に各一
棨あり、棨ごとに、耕具を置く、耕具とは、鞭、犁、鎌、鍬、
ら耕す、後、農具ともに、飾ある小箱に納めて、順天府尹、
泰を捲まくるを以て、親ら稲を種まき、後、耕の三王九卿、麦穀穀
を播まくなどを以て、終日、耕す、後、皇帝、中和殿に御し、後、祝版と同じ、保和殿

に御し、後、此時、戸部尚書、耕具を陳設する事、前の如し、
業後、祝版、中和殿の東より、極戸部、後部の尚書、侍郎、各屬官と率ひて、中和殿、丹陛の南より、東西に分れ、
後部の尚書、一人、係和殿の正中より、帝前に進み、跪きて、皇帝と、
種と、圍一尺、長さ一尺五寸、黄色の袋に盛りて、黄色の袱にて、
其袋を、包み、黄色の袱にて、包みて、黄色の袱にて、包みて、
所より、龍亭、一、帝輅の左右より、陳べ、東より、西へ、東より、西へ、
和門より、署官、跪きて、奉じ、これを、迎ふ、其時、皇帝、龍袍、
して、龍袍、之の後、此時、後耕の王公、贊ひ、侍衛の、各官、東西、
つゝ、祝版、之、前後、陳べて、戸部、尚書、一人、東面して、右より、順、天府尹、戸部、尚書、一人、東面して、右より、順、天府尹、戸部、尚書、一人、東面して、右より、順、天府尹

苑圍郊坰

よし唱ふ時順天府尹北面跪て敕を受く。其時順天府丞まき箱を奉げて龍亭のよこ涙没ひ和多異正屬官を引て退くなり。時よ礼部尚書奏ふく觀耕耤壇の御ふ始んやを告ぐ。帝やがて午門より出御し龍亭に後ひ記注官記人西の階より登り耤上の西南の隅なる皮幄に官い王公百官と引て其室下の左右に立し此ときあく。耕ふ行ふ三王九卿次第をもて耕耤の礼を行ふ。各着笏一人と牽き農夫二人犂と持く順天府尹耒一人を箱と奉ふ一人播種をとらせり此時三王以下又各推ふ九度返せり。礼畢て各靴耒をもて現俗の序三ひ執事官を指と東西の廊下に分立して三王以下九卿の礼を行ひ耕田をめぐりて而と終り礼部尚書跪き礼の成ると奏ふ帝王坐と立て東階より降ふ。此時通事迎の傘と俄ふ祐平の章と奏ふ礼王公従卿其外の各官次第して退き畢て此時着花農夫と牽て墓者まき民官布に近て綿入秋ふんで王耕きのくぬると奏をふ若旧と擇くこれと朴舎の中ふ納ふ王地家廟社稷を祀ふ。其時深衣幅ふ供ふ後ふ。〇天ふ時順省方ふ後ふ所ふ官と遣ふて耕耤の種を執ひ先農と祀らしめよ。

其遣官の祝ひてふ署ふ。

○觀音寺

つふ巷此ふ有ふ。明の崇禎の間王應組ふ

外城此ふ在て統ふ。其寺觀南河のふき着いまくこれを署せり。元大内皇城内城外城ふ在ふ京城と稱ふ。深く禁苑より洋ふ熟察せば。洛陽今の京師の光景を識ふ。恰ふ掌中ふ指ふ如ふ。希いゆふせふ觀ふ事多き。

昆明湖

苑囿總圖


樂善園
倚鶴亭
高梁橋
玉泉山
乾隆十八年賜名万壽山
清漪園
長春園
圓明園
水村
西直門外石道
白石橋
湖水養
西便門外石道
海淀
鳳凰墩
大河庄
萬泉莊
長春橋
白祭堂
玉河鄉
花園村
玉湖東
下莊
村家吳
園桃杏
村水西
城極樂
村義彰
大井村
石槽村
廣益門外石道
桃源村
黃牛圈

苑囿郊坰

松林園　東城の小の西徳勝門の外よりの即城河の小の園へ其水玉泉山より發て高梁橋東城の西水西門外高梁河より分東小よ流き徳勝門の外よりて別き一ツ二流となり其一ツ小水関より内城よへて御河よなり一ツ松林園を出て東よ流き妙齊化の二門東城の東よりへりを經て通州よ至り白河と合流を

玄城関　徳勝門の外にあり　此所舊館舍高樓建つゝ林うち今悉く廢れ唯林木蓊鬱として蒼翠の色深く即東阿八条の一ツよして蒹門烟樹と稱し○臥虎橋　大石橋○多寶佛塔　禪院　明の萬曆年間の建る所なり○北極寺　○功徳林　もと玄城の

方澤壇　東城小の東安定門の外小郊にあり　方丘小に向ひて二城をみせり○上城の方二丈六尺下城の方十丈六尺高さ六尺六寸階陛各四出て階ごとに十二の級あり　外の八方に八小八十四の龕を設て城を繞る　徳横各二十尺高さ二尺六寸二城の間六十六丈八尺八の数よ倣ひ　いづれも六八の法数よ合せ階龕ともに皆土を築き

上城二城修よ八級の陛にありて各七制ど○二城の上南の左右よりは五嶽五鎮又渡山の石室七設け山の形を繋ものせり小の左右よは海に濱の石室を設け各小の形石座のもたい池と繋て各礼あるものあり東西と南よは各一門二柱ある有り　按一統志五丈と渡く○外壇あり方に十二丈門の制内壇よ同し其東西門内の左右よはをのく燎爐ありどちに向ひて門一ツを渡く　神庫神廚各庫　樂器庫　皆外壝西門の外よあり各一齋宮　牽牲亭の西小よあり各一ありく　齋宮　内宮の門い三間左右の門各一門外宮牆周百有十丈二尺門三あり南の門の東小よ接樓一ツあり　壇内垣　周六百尺に十九丈四尺西と小よ各一門各三の門あり東と南よ各一の門あり　外垣　周七百六十丈四尺西よ向て門三有一ツあり　每歲夏至の日をえて天を躬此壇よ祭ふ　皇帝旅方澤祭地之後置之

○北宮遊擊署　○東黄寺　○西黄寺　○華嚴寺　○護國天仙廟　俗よ娘々廟と稱す　○滿井　東北門の外小あり　詳よ見　井の綾又天然清泉ありとだしてよ此水よもよ渇るの人多し　堤畢の若石園を造りて井の周りよ垣ねめぐよ清泉の園外よ散溢して日暮よ遊人甚佳く井の東よ小亭と設け　暮春よ都人攀て勢勝と稱す　○望京村　墩基　○北宮外東小守備暑　○明

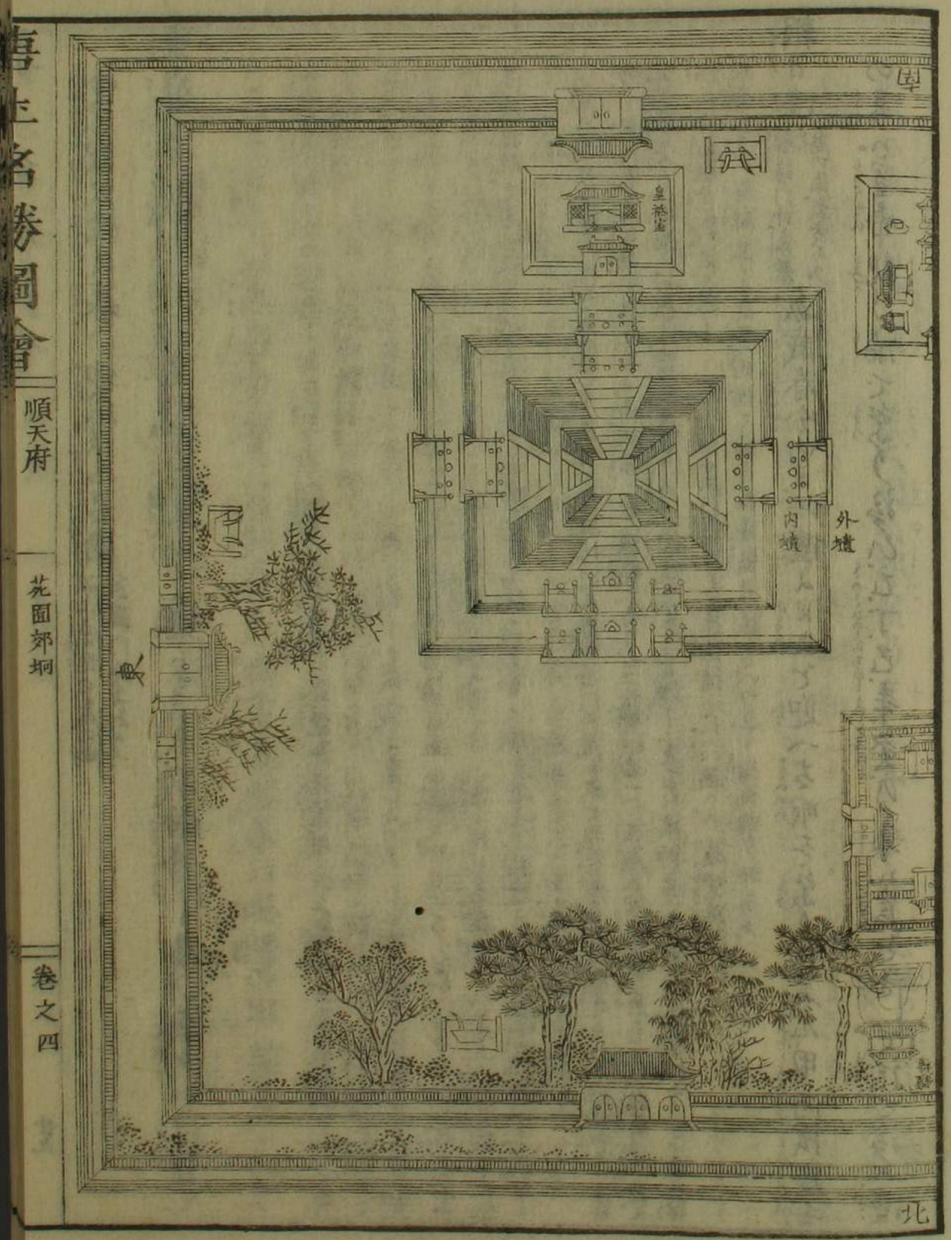
多寶佛塔禪院

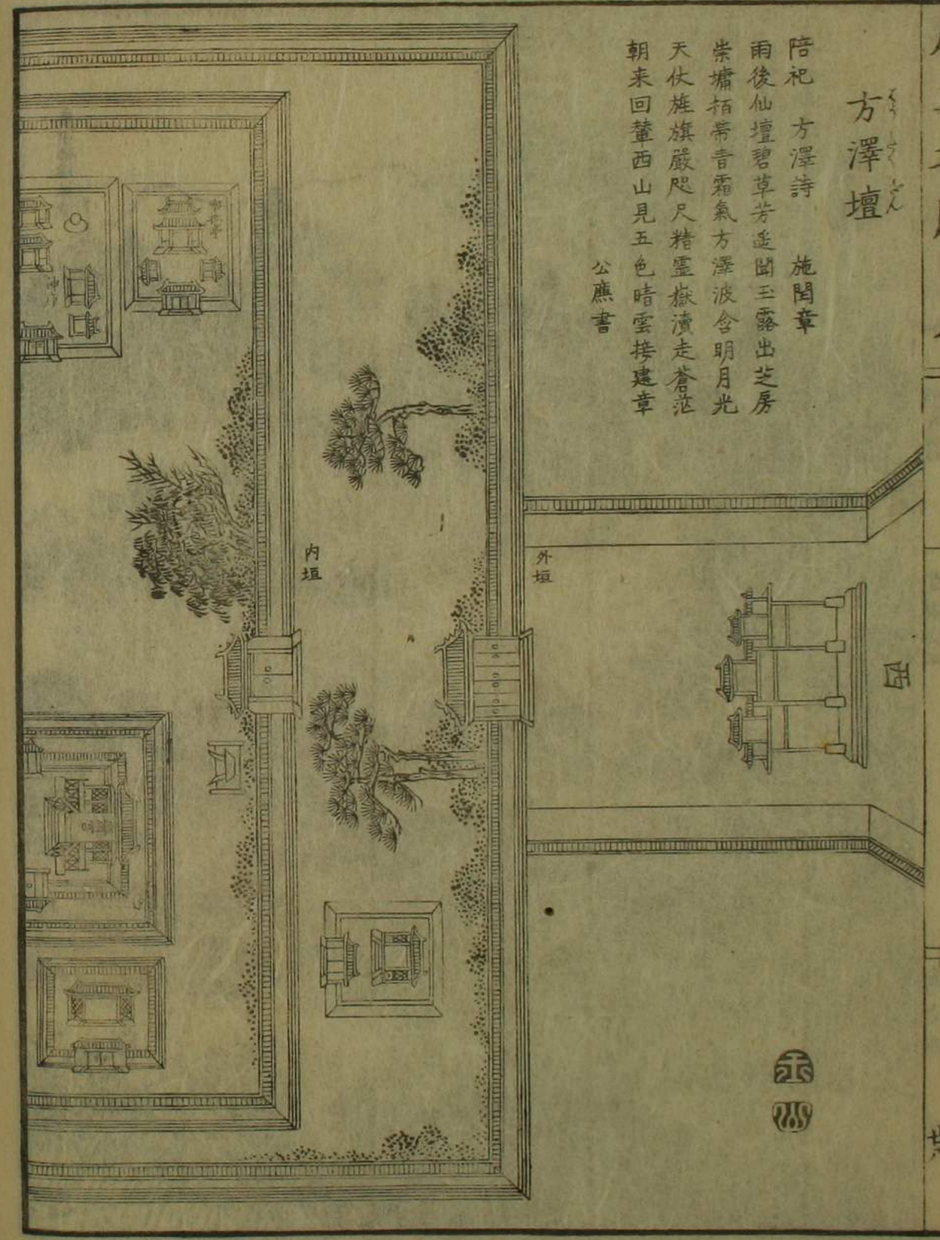
臥虎橋

野色蒼々接薊門
淡烟疎樹碧氤氳
過橋酒幔依稀見
附郭人家遠近分
翠雨落花行處有
綠陰啼鳥坐來聞
玉京盡日多佳氣
縹緲還看映五雲
金幼孜作

薊門煙樹

北極寺





方澤壇

陪祀　方澤詩　施閏章

雨後仙壇碧草芳遥聞三露出芝房
崇墉栢帶青霜氣方澤波含明月光
天仗旌旗嚴咫尺精靈嶽瀆走蒼茫
朝來回輦西山見五色晴雲接建章

公應書

倉忠潔公祭之墓。○祠名霞元君廟。祠上承城の東の小直門外にあり。

東嶽廟　東嶽泰の南にある。元の延祐年中に建らる。累朝勅修ありて。翠門外にあり。

こゝを守ります。康熙帝賢び乾隆帝の御書扁額等の御制の碑詩などあり。

此廟の塑像。元の劉元が造る所なりと。其後又滅ぶ。此像劉奉忠が都城を經營せし時。自ら作りて其の像を刻せしむと。奉忠の門人孫某謂て曰く。迷ふ我を東嶽廟まいらせ。我が像を造りて廟に安置せよと。奉忠其の門人孫某に命じて。泰山三百三帝の像を造らしむ。像既に成りて。廟に安置せしに。其後民怪をなすこと靈あるをもて。像を毀ちて。泰山三百三帝の像を造らしむ。像既に成りて。廟に安置せしに。其後民怪をなすこと靈あるをもて。像を毀ちて。泰山三百三帝の像を造らしむ。像既に成りて。廟に安置せしに。

○廟の制。南に櫺星門。內外。圖坊二座。廟門三間。牌坊門三間。瞻岱門又同。正殿七間。兩廡各三間。迴廊各二十六間。擔各一。東西深楼三十三間。廟門の內。左右。御碑亭各一。碑樓各一。外。石獅二。左右に鐵獅各一。其外に流觴坊あり。東西に碑坊あり。凡殿宇門廡。皆琉璃瓦を葺き。丹雘を施す。

朝日壇　朝陽門外東嶽廟の南にあり。

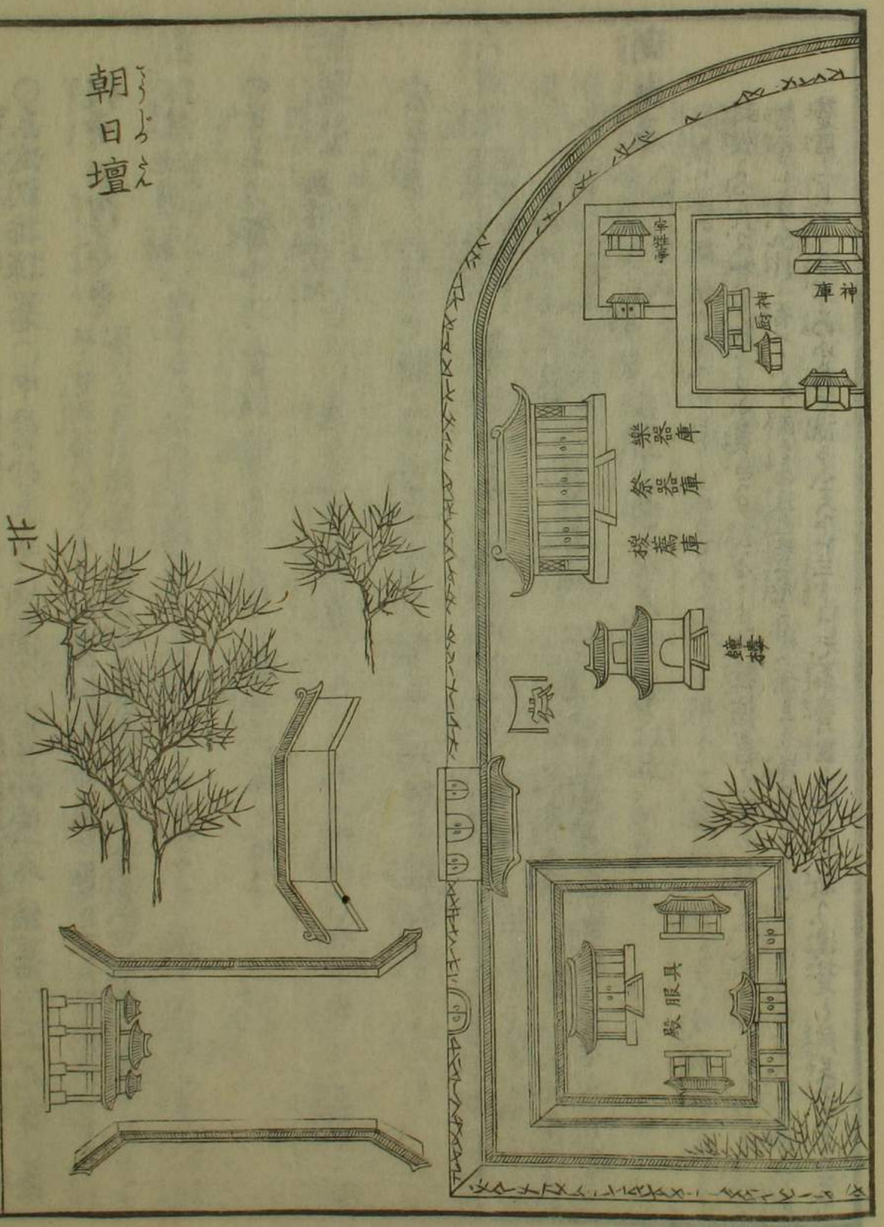
上の正位。各金版を設け。大明之神位。夕月。朱をもて書く。壇の制方うて西に向い。方丈六尺。高さ丈六尺。面は金甎を布て鋪く。九級。向石の階。正方なり。三門あり。東南北各二門。ともに圓光。壇の周圍七十六丈八尺。正面の方に。三門あり。東。神廚。

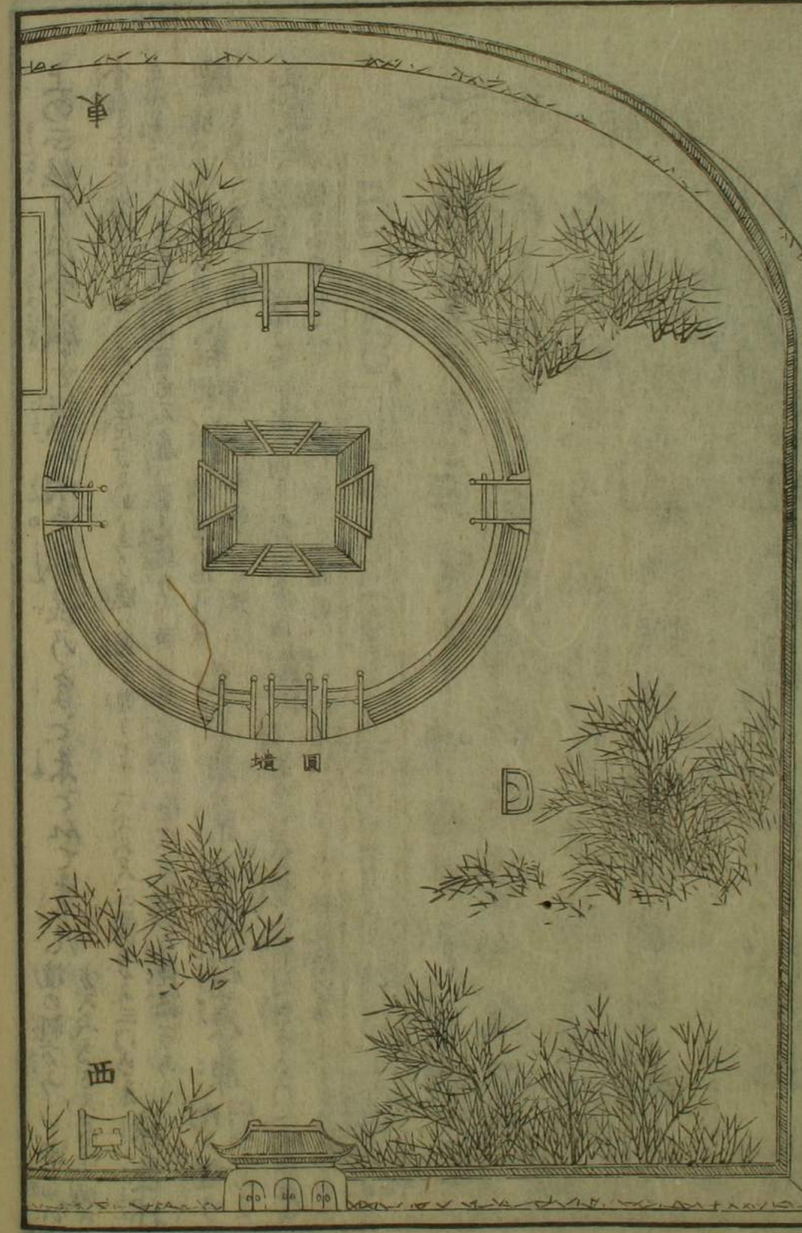
廚。壇の小門の外にあり。宰牲亭。神廚の東にあり。

具服殿　殿の瀕ある南に向く。殿三間。左右祝版各三間。備ふる所の冕服を藏む。

扶桑一出海雲中　壇壝巍巍禮神
向來位首三座光　燭物象兩曜晝
配宜經天亘地　規模介澤同九畝
左壇位　奠玉帛　朝日壇陪祀詩　高義敏
芳飛朝日連宵旰　終獻終歸珊珀爵　金罍已射

朝日壇





帝王名勝圖會

○東城副指揮署○中營外東守備署○小營外西一守備署○王妃宮○淨
慶寺○隆壽寺 双上皆朝陽門外之石道朝陽門外之有○朝陽門石道多傍の碑い乾隆帝の御制碑也○石牌坊 朝陽門朝日
壇の外之有此石松樹数株ありて森流と日注をを流さ尤奇之黒松林
の多あり都下の貴族常之避暑の地と也
諏耀臺 朝陽園の外六里之有むし唐の右家高麗と征〜時此地に兵と屯〜虚く園
倉を多く作るく敵人の勇気を挫ぐ俗因て此地を諏糧基と呼ぶ
大通橋 外城の東にある橋下の水東に流れ通州さ通ず白河之入
東便門の外之有 掌のごし石樹数百株武の偃武の
仰ぎ乱き甚佳景の事多の故也○三忠祠 俗之大通橋のあり三忠祠い漢の諸葛
武侯楽の岳武穆王を信ごと祭る
蒯徹墓 外城の東門廣渠門外八里荘之有古阜高さ尺許茅に并ありて
蒯徹い漢の韓信が旗下のまたり嘗て人を相とる術をを
封候さるに及ぶ背を相とるか貴きや賤きや蒯徹がいく漢と変と
智勇と争い功の若ろ今両者のなき已前之漢人震い慄き若ろ
楚項氏倒滅さ若ろ如是と謀るか天下と三分して若齊國さ勢ひと張り漢楚と鼎足ごうさが天や
の若王相率て齊さ朝ず天のあるごと変ざれば其処と変ざれば其処と変ざれば
こんを悉ごて蒯徹が韓信が旦く漢王我さ遇る多甚多し我豈和と計って義さ信く
ご震く若い功天下と奪く若い貴でうと欲ざるの情ありや蒯徹が旦く勇略を
小事と為ざ大事と為んこと欲ざるこい信終さ漢さそむく
ざるり蒯徹其言の聴ざるに及て益〜てんと韓信さ説て曰く僕
説て信に擒武士さ命じてんと韓信む信
ろう蒯徹が計ざ
を知ひどて児女子のねる詐ろ当天下
し蒯徹三様と変ろう高帝洛陽さ都して韓信
が殺さるを安否ごう何て旦く信死ると雖何ぞ
し信の旦く信只蒯徹が計と用ひざる我恨ごとり
此さ知て高帝詔く蒯徹と擒へ来て旦く若
韓信さ教へてるずんこ詐〜や蒯徹旦く狡
盗ごさ飼ろ狗の斃とんく咬ごんこ斃のごとし
ふぼあ〜此狡実ごさうざる我ありより医
韓信を殺て陛下と朝ごさ
こんを漏るのく高帝之ろうとして蒯徹と



○中營外東南守備署○祈恩殿○延壽寺○圓覺寺○上都慶福縣門外
敎里
あり。

宏善寺　外城南の高麗の名妓善非の舊宅なり。明の正德
年間を隔て善霖が建つる所也。俗と
もに善公莊と呼ぶ。善公の歿して葬るの
地を樹敎の前に指さすなり。
寔と浪ふ。烈日赫々たるの日、善公善人
書て謂く、飛燈の老松依要の栢善莊
の栗る、并本すの三絶と稱したり。○
宏善寺の後に彩樂軒あり。修造甚潔一面
壁に高人逸士の畫一雙鶴の圖あり。來賢の
陳寅橋を書して、徐渭が畫鶴の絶を
時法朝鮮肥の秀吉の名
あり。○隆德寺　光安門の
外にあり


韋公莊樹下宴

金臺　外城の西南にあり。永安門
の外、東南三里にあり。土阜あり。上に亭を建。乾隆帝御書、金臺夕照の
匾あり。洋人葛水金臺
あり。

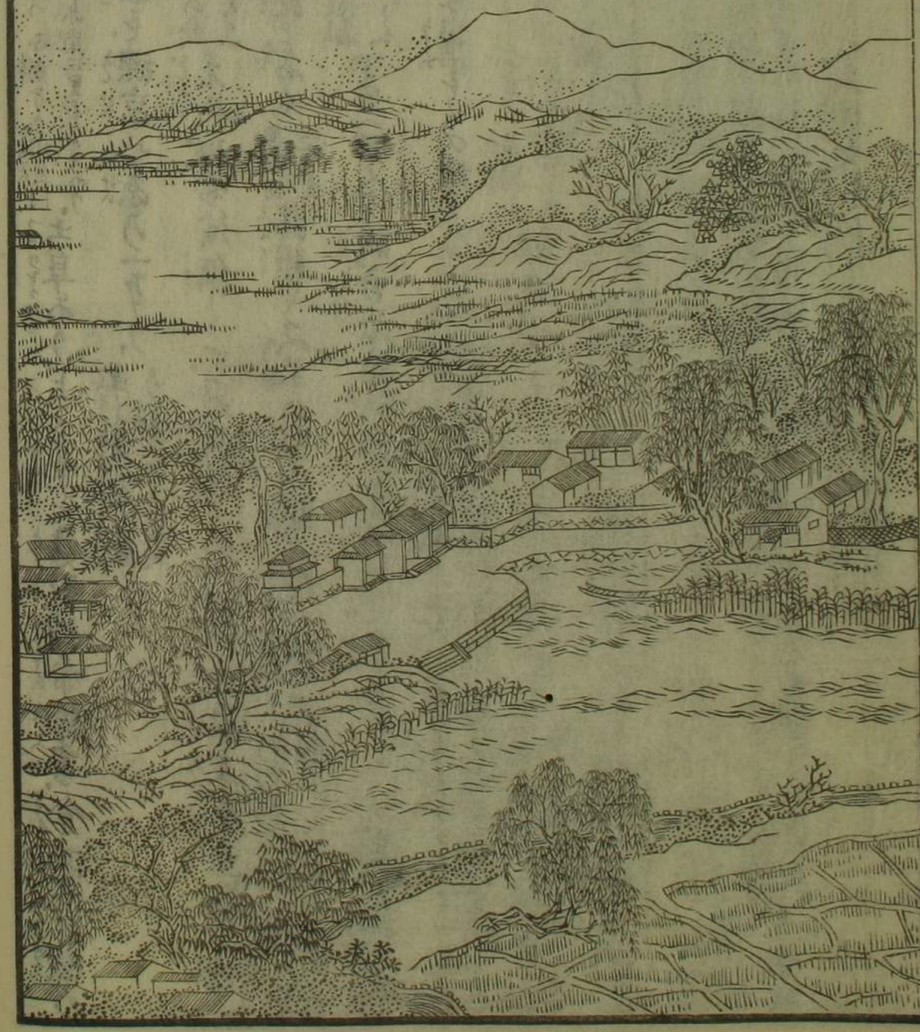
旧宮を勤め、燕京八景の一あり。

南苑　永定門の外、
二十里にあり。元代此に飛放泊とよぶ。明の永樂年中、其地を擴
廣て南苑と名く。周廻百
二十里、清朝もまた
其邊の民と往
ずして海戸とす。一ヶ六百人を設け、各二十戸に敵の地を與へ苑中を守らしめ、春よ蒐し、冬
狩し、其を溝とるの地とす。苑と稱して苑圍とよぶ。
稱し、そのうち五つの御苑あり。繚垣二万九ヶ二百八十五丈九の門あり。
を雙擔門とよび、西を西紅門とよび、西北を旗圓寺門とよぶ。
八人あり。俗に正黄旗
莊稼書屋とよび、西を要書房とよび、南を書室とよび、平堂樓あり。其の上に一つの寶閣あり。内二層の殿。
ヶ御幸ありて、大圍を舉ぶ。軍を調練ふ。

大紅門の内にあり。東
殿　廡廊あり。○舊衙門紗宮　紅門の西南にあり。門樓三層
御書の額あり。茲慶の本を
南海子の内にあり。乾隆の
十五年有壽圍經百二十丈なり。皇帝此

南苑

南苑講武恭紀
時平講武近岐陽
甲冑蒐春出建章
洛水旌旗周南草
西京詞賦漢長楊
御園雲氣成龍虎
天廐星精本驌驦
画戟雕弓森羽衛
射生群與奉君王
張英詩



九大圍ハ三歳ヨリ一ツヅヽ稚幼ヨリ将士ノ子弟ヲ撰ミ合セ蕃衛長擒ノ称威破ル処ヲ画ケリ左ノ旗ハ鎗ノ旗ニ甲兵ヲ率ヒ旗ノ右ニ旗ヲ執ル左ノ旗ハ鎗ノ旗ニ甲兵ヲ率ヒ旗ノ右ニ旗ヲ執ル蕃衛歩卒ヲ率ヒ左右ニ分レ両翼ヲ護ル中央ニ蕃衛長擒ノ旗ヲ執ル

皇帝大閱行粧之圖

皇帝

皇帝隨侍

親王

鎮國將軍

輔國將軍

奉恩將軍

領侍衛內大臣

侍衛鸞儀衛所屬官 以上同

和碩額駙郡主額駙內大臣裏行之公侯伯散秩大臣 以上同

郡王

貝勒

貝子

鎮國公

輔國公

縣主額駙

滿大學士公侯伯子男文武一品文二品以上同

三旗大臣文三品四品五品 以上同

文六品七品八品九品同

八旗都統

八旗副都統


前鋒參領
前鋒侍衛
前鋒校
前鋒校棉
前鋒棉
前鋒綠營兵


武狀元
藤牌營兵
綠牌營兵
毅手


驍騎參領
驍騎校
驍騎校棉
驍騎棉
驍騎兵
前鋒統領


護軍統領
護軍參領
護軍侍衛
護軍校
護軍校棉
護軍棉
護軍綠營兵
鹿角兵棉

○皇帝南苑又以其外苑囿部垌之獏一統之大將軍稱況近郊之將一統之先圖場之南苑之宸苑之儀圖云云とて八旗の後鎮各と號せり一統之圖場の布列と落續實に壯觀也と云へり又云旗と云て旗と云て旗と云て

○南営外南二寺備署　○廣恩寺　○九蓮慈福寺　○徂氏園　○年氏園　以上皆右安門外あり

廣寧門　外城の西門にあり。門外より石道を築き、盧溝橋に至る。雍正帝御製・重修石道の碑あり。

外石道の碑　乾隆帝・重修石道の碑あり。

天寧寺　廣寧門の外にあり。此寺隋の仁寿年間の創建。唐に天王寺と名く。金の大定年間重修して天寧寺と改む。元魏の孝文帝剣を遺すの故跡、御書の額、十三級の塔あり。塔亦遼の咸雍年間の建。隋文帝の舎利を藏せり。明の正統年間重修。清朝乾隆年間重修して、十三級を八級に減ず。塔の四面金釋迦牟尼佛の像を嵌む。

柳巷村　廣寧門の西南にあり。財神廟あり。

湿水河　即桑乾河の別流。

馬陘山　盧溝橋の西南に十五里にあり。漢の光武帝・上谷の狩の時、此河より馬を洗ひ給ふ故に名く。

洗馬溝　盧溝橋の西南にあり。名くるの由を詳にせず。

合流口　洗馬溝の水、盧溝河に合流する口。

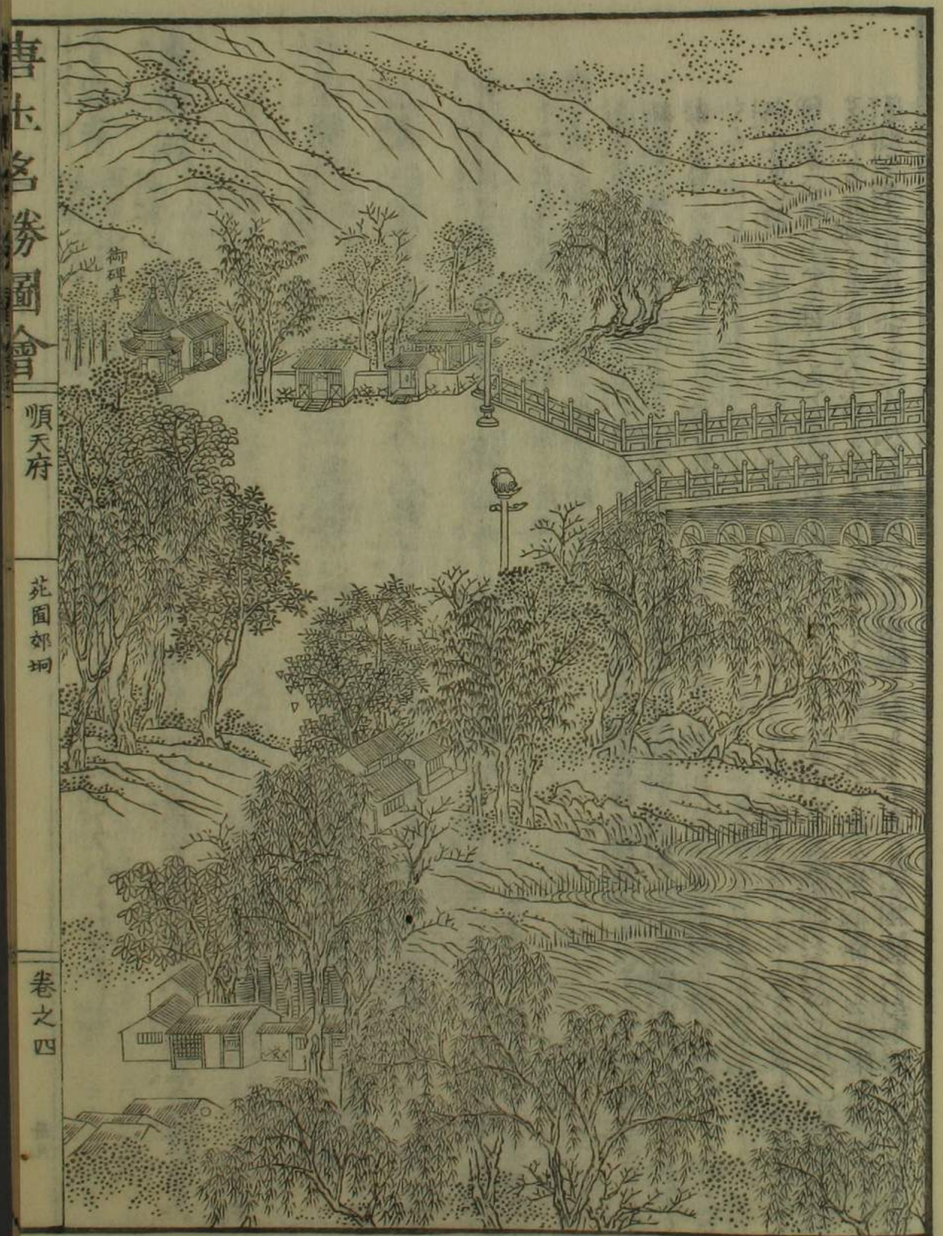
盧溝橋　廣寧門の西南三十里にあり。盧溝を跨ぎ南北往来の大道なり。金の大定二十九年、始めて此橋を造営して明昌三年に成る。長さ二百余歩、左右石欄あり。獅子数百個を刻して其の欄杆を飾る。康熙三十七年重修ありて、河の名を永定と賜ふ。乾隆帝御書の盧溝曉月の碑を勒して橋の側に建つ。康熙帝御製の詩あり。各碑を勒せり。東西橋柱の逸文古樹蒼苔として、曉景素月と倶に一つに、橋上より遠く西山の群峯、屏列して皆画のごし。

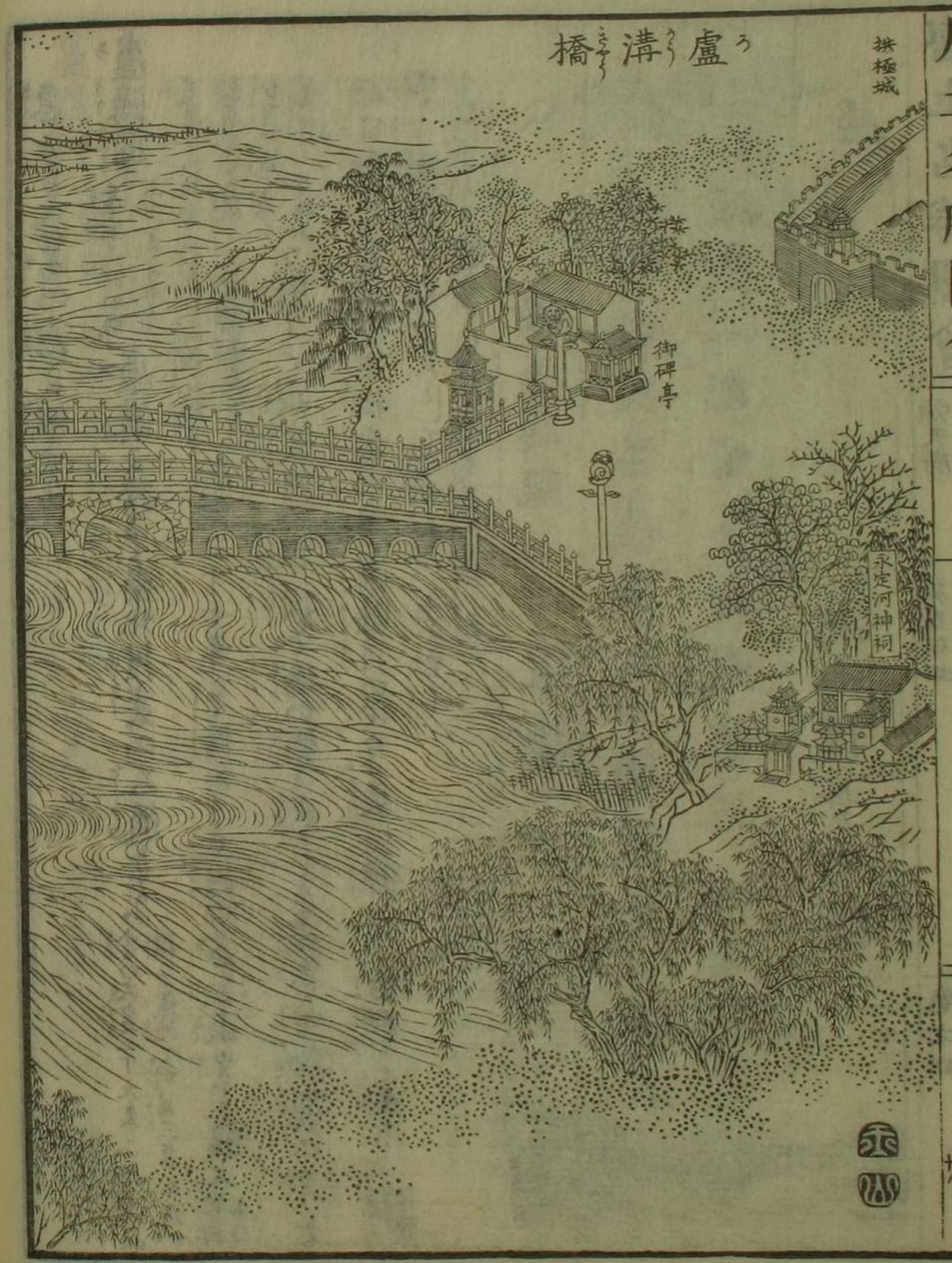
盧溝河　宛平縣と大興縣とを経て南の方永定河に入る。一名渾流口。又黒水と名く。水色渾濁なるの故なり。

過盧溝橋　宋犖

盧溝橋畔雪霏霏　多少行人冒寒又一過
道卿以南古柏樹　依然流水似黄河

閻南陳景山


御碑亭


盧溝橋
拱極城
御碑亭
永定河神祠

金園寺 叡溝の西にあり。石泉山よりあり。石泉山は、孤峯特立して、峭石と擊ちそばだつ。塔あり。遠眺をひらかしむ。

惠濟祠 石泉山の麓にあり。雍正年中の建らる。以て永定河の神を祭る。御製の詩あり。

○大慈觀音寺 ○普濟堂 ○福生寺 ○西路門 都署 ○元を係劍恵忠亭 以上皆廢寺 門卻つあり

白雲觀 外城、西北の隅、阜成門の外一里ばかりあり。元の大極觀の故墟なり。内に丘眞人の塑像あり。像面貌白く、眉鬚皓く、[illegible]

毎年正月十九日、都下の人拜集して祭をなす。元を燕九節となづく。康熙、乾隆、両皇帝御書の碑額并に御製の碑あり。真人の像の右の壁に刻して、造りたる年月一あり。上の數行は、内に文斗を容る。

仙須と稱して逝く。年八十あり。至元己巳年、贈号長春演道を教真人と號ふ。

一云心教古人難為
少通玉藉尓安宅
若拘疤文信國乃
頃屯擬英英祠
乃明朱國祚影白
雲觀 汲古書



白雲觀

弱魚墓 白雲觀の西三里河の西北三里許にあり。三里河の内一溝を、弱魚墓の西北に居村あり。墓下より泉湧出づ。匯注して其水甚だ

御書、弱魚墓の三字をなでびる御製の詩あり。

招に依りて之を葬る。金の洪鄒人王翺、呉煜釣臺詩、金王鑾輿幾度来、釣臺高欲比金臺、可憐臺下王飛伯、不及鱸魚得奮腮。

玉淵潭 府の西十里、玉泉郷の西に在り。その丁氏の人の招迎なり。池の擾れ境すはなく、柳樹を植て景気蕭爽へり。加之、沙禽水鳥、翔集り、そうん、遊賞佳景の第一とらくべし。

崇壽寺 西便門外、白雲観の西、六里半坡にあり。門外に鐵獅二あり。鎮宅獅なのごとし。○関聖廟 府の西南、○三義廟 府の西、桃園にあり。○大乙集仙観 府の西、卿馮墓にあり。

夕月壇 京城の西南にあり。東城門外、西郷に在り。毎歳秋分の日、此壇より月出を迎へ、夜明を祭り、次て小斗五星、二十八宿、周天の星辰を配祀、凡そ丙辰承応の年、天より自ら詔旨を降し、其余いづれも「宮と老」して第一せよ、壇上の尊位、余も贊ひ奏放を設、夜明之神位の次に白書せり。配位、編版金書にて、九十四本、六天、壇の三面、六檐、西南小名一門、二棲、棲及び欄干皆白石、扉の隣第一檐、壇の東門、此門の外、燎爐各一座あり。東北隅に、

霊牲亭 歩亭一条、香庫 **樂器庫** 東西の陽にあり。正殿三間、南に向ふ。左右配殿各三間、衛るに小宮牆を以てし、

宮門三、壇垣 周二百三十丈、北九尺、東小名門一階三門、左右小門の南向に一ヶ所あり。壇一ヶ所、小門の傍に「ヶ所」の琉璃瓦を覆ふ。

夕月壇陪祀 勞之辨

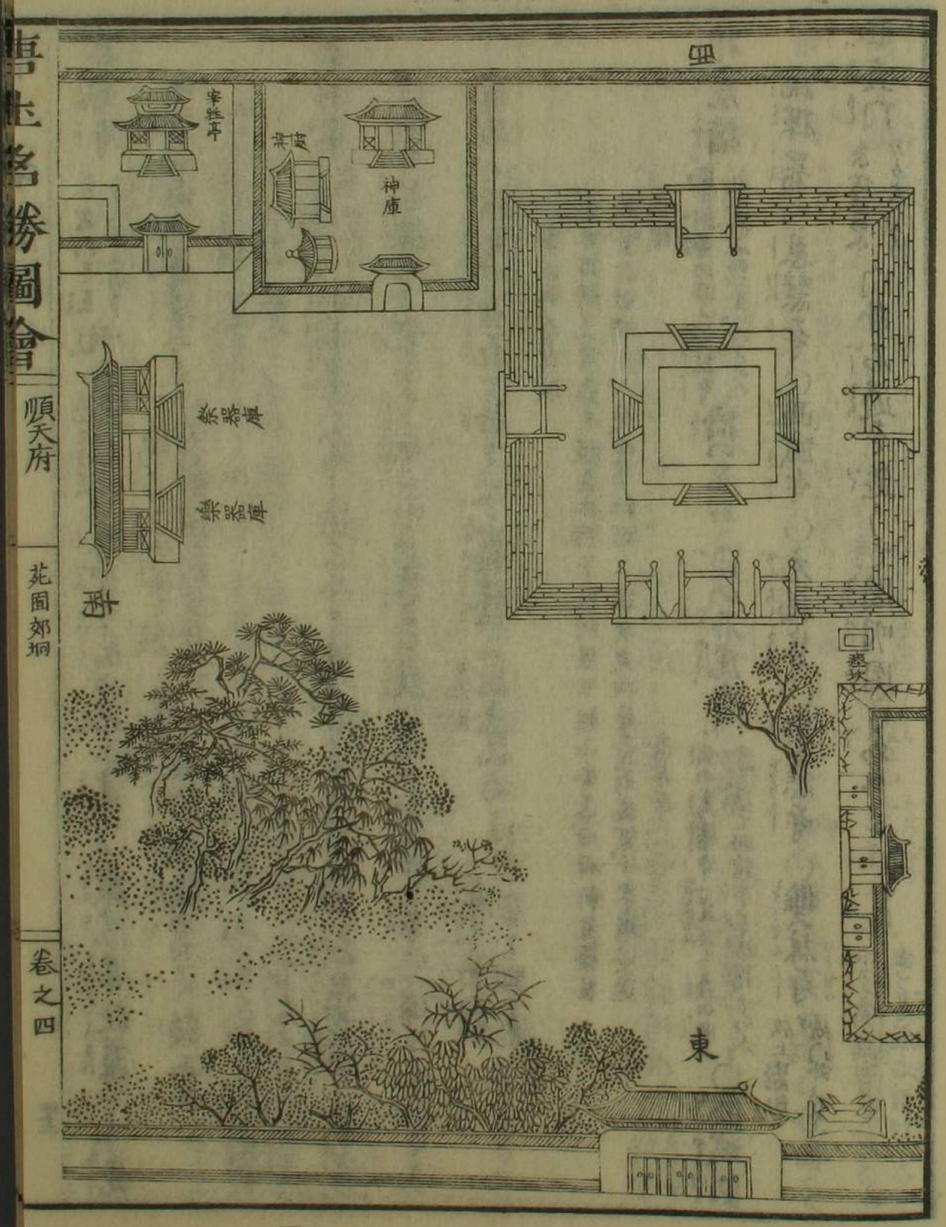
永輪夕曜配朝暾、設坎規摸古制存、尚白總依商
帝色位西仍避、太陽尊節因小盡、賞留葉覩待初
生、桂露痕蒼竊列卿、空應象羞將衰髪照銀盆

西渠錄

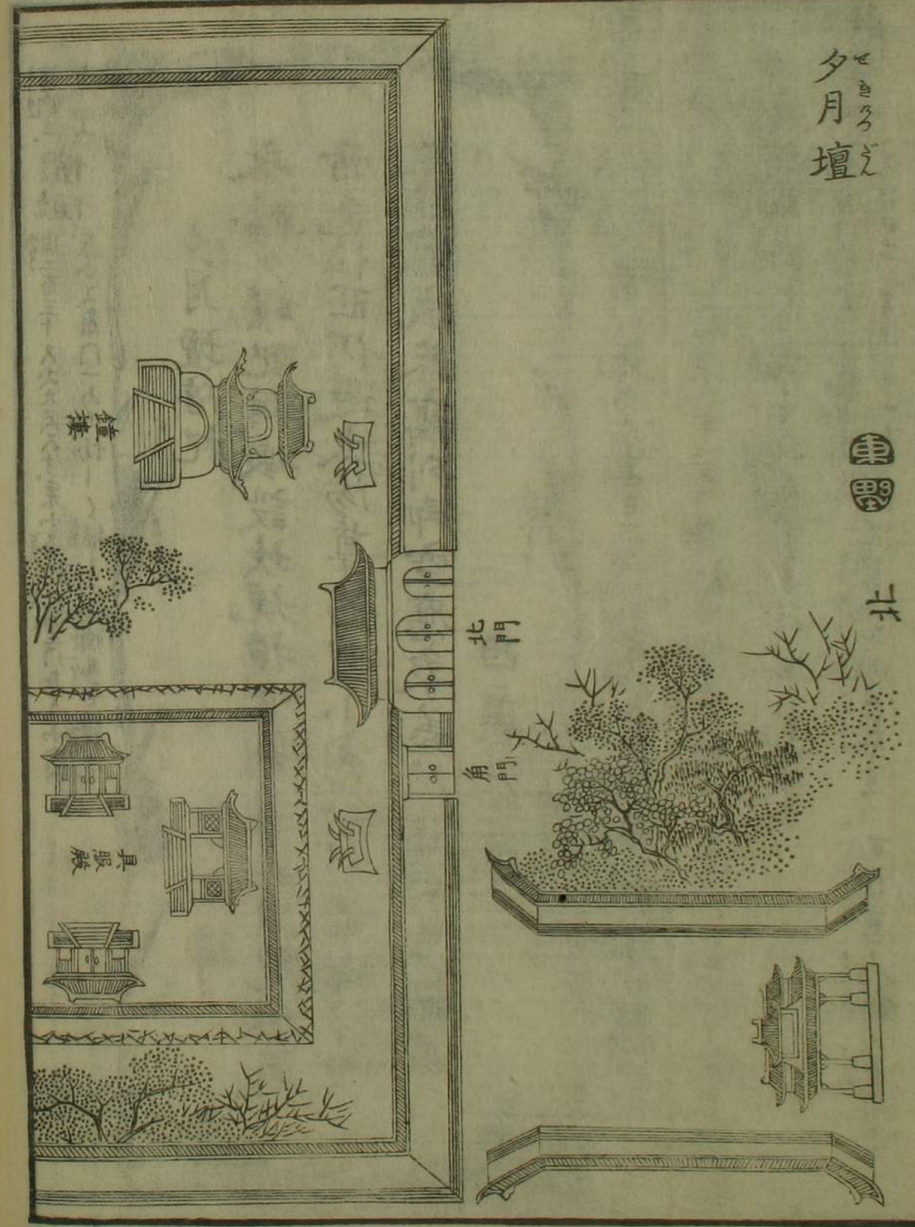
寶塔寺 阜成門の西にあり。茲に塔あり。高さ二丈、計五層、六面面毎に佛像を刻す。

慈悲院 阜成門の西南、大街にあり。乾隆二十八年、潭拓の僧募緣して、これを建、以て老人幼雛の廢疾雖病ある者を收養するの所となせり。

靜樂堂 阜成門外二里、慈孝寺の其後の方二里許にあり。都て宮女を此に葬る。不謂宮人斜の名なり。



夕月壇（ゆうげつだん）



慈壽寺 皇城門を去る八里ばかりあり。明の永宗帝・慈聖吉后のために小建らる。殿宇甚壯麗なり。左の方に永安壽塔あり。十三級ありきの雲漢を聳りに磚にて造れり。乾隆帝御書の額あり。明の萬曆中に重修ありしが、今は頽廢して、ただ金剛の像と刹竿のみ殘れり。

摩訶菴 慈壽寺の北にあり。此菴甚大にして、清淨なる特に甚し。松柏蒼中に掩映す。

[illegible]隅各高樓あり。登りて一帶の山川蒼翠を攬ひ、河村雲霧を夢て彷彿たり。

萬曆の後菴中杏花を栽ゑ多し。餘株此より遊者山のごとし。

摩訶菴看杏花

青郊路轉見芳菲。日暖園林燕子飛。別圃乍經山杏落。僧厨新煮藥苗肥。繁花舞蝶迎人面。細草輕烟上客衣。更向層臺高處望。十堂螺黛送春暉。

高士奇

祐虎橋 摩訶菴の西にあり。明の萬曆中一虎忽ち夜の間に遊ぶ。像を此橋の三處橋とぞ。○西城副あり。其の西二里許にあり。橋の左右に石虎あり。

梅檀署 ○慈慧寺 ○西城寺 ○元福宮 ○永應寺 ○雙林寺 以上皆阜成門外にあり。

西直門 永城西の小門外石道を造りて園明園にあり。

高梁橋 西直門外石道を行くこと里餘、高梁河に跨る。源は玉泉山の清水を引く。橋より上を長河とぞ。石道の中ほど二坊あり。南を長源永澤坊とぞ。北を慶澗資安坊とぞ。

樂善園 敬慎堂あり。堂の西にある梁橋の小溪に跨る。内に倚虹堂あり。堂の西に亭あり。内より小溪を隔てて二里許あり。園あり。

穿堂 ここを入りて東へ向ふを意外味とぞ。石徑を南へ繞りて、於此賞心とぞあり。内を倉溪齋とぞ。東の清漪と呼び、小の絡苑園とぞ。南は雲陰波動軒あり。此外園中の堂宇、亭室棲あり。軒あり。或いは村舍或いは田宅、野のごとし。憲峯にて三峯ばかり、これを圍つて畳ねたり。

楊樂寺 高梁橋谷あり。門外に大柳樹三株あり。高さ數丈を拂ひ長枝蔽とぞ。

地を掃ふ 明の風化中、寺内の牡丹を植ゑ、盛に開花ありしとぞ。

大真覺寺 楊樂寺の西にあり。明の永樂の時、西域の中印土の僧版的達來りて、ここに着倉佛五を奉安ありしとぞ。

詔して大國師に封ず。此寺を建立せしめ給ふ。成化九年、中印土の式に準じ、寶座を造石基を繞せ給ふ。基の高さ丈尺、左右に欄楯を繞らす。玉の階を引きて、梵字の經幢を樹つ。乾隆二十六年重修ありて、御書の額御製の碑を賜ふ。

白石橋 西直門の西、一里許にあり。明の萬曆馬ヶ白石莊なり。臺榭皆古本にして、附郭園亭の第一とぞ。

廣源閘　西直門の西七里にあり。閘と云ふ。通ずるなり。清朝類ふ此を修造し。舟を昆明湖より入れ。繡漪橋より墜し。

清漪園　ふるはしむ。

萬壽寺　廣源閘の西。殿宇きいりて廣廡あり。數堂のあり。殿宇きいりて廣廡あり。華嚴樓を懸ふ。

後の徑長き一丈二尺内外ふ仗。佛号既に弥陀法華滿品経を刻ふ。其の高さ數十里ふ望む。相傳ふ元の書。

寺ふ張ふ。御製の碑。清漢。蒙古。西番。四體の書あり。

萬壽街　萬壽寺の西の街ふ関門を設け。長廊あり。左右ふ商賈ふ雑ひ肆をつらぬふ。

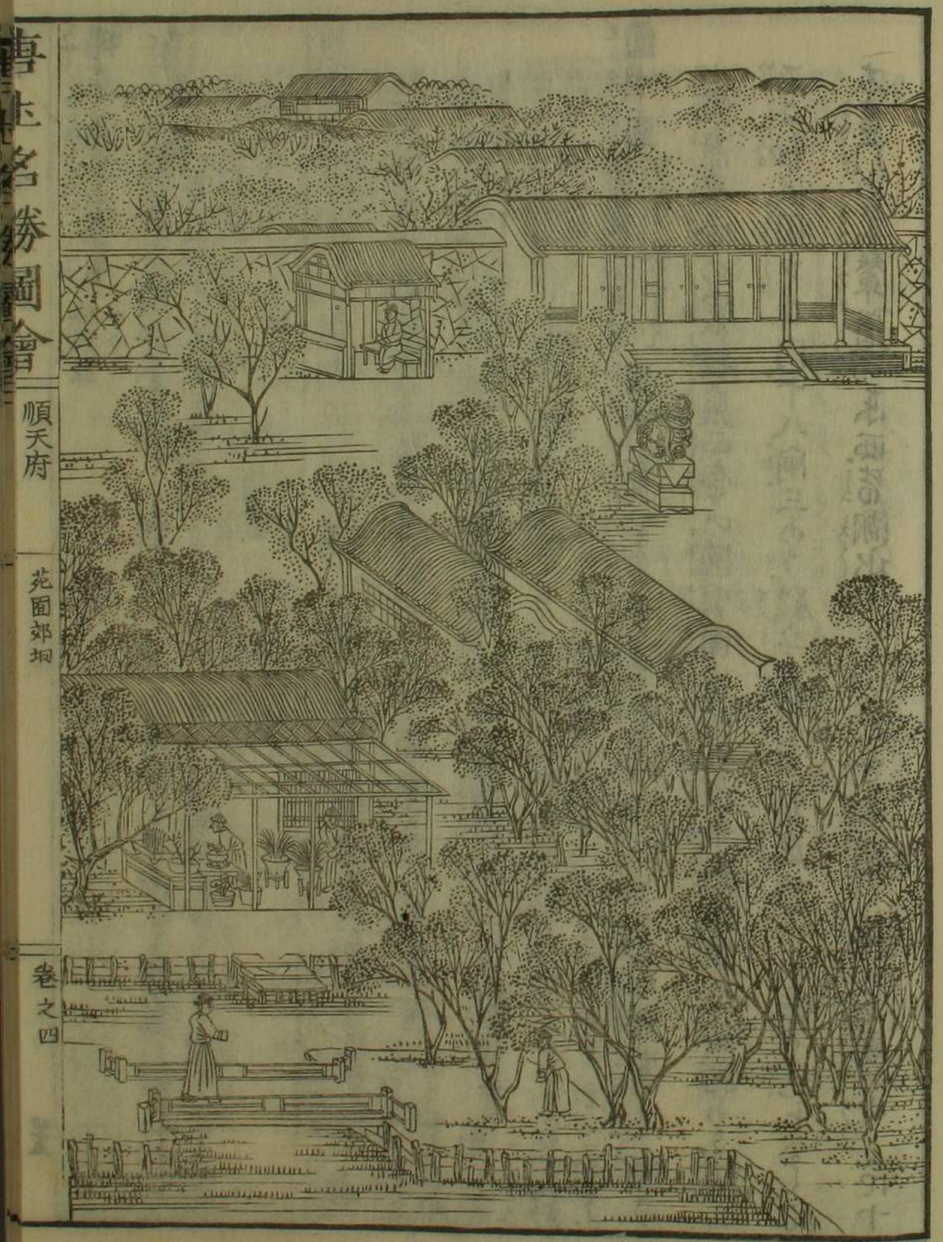
暢春園　南海淀大河莊のふまあり。園の縁垣。一里六十丈有奇。即此園を云ふ。

此園園明園の南ふ當ふ。故ふ園ふも稱ふ。宮門の内ふ小河を引ふ。

内ふ小河を引ふ。中ふ九種三孝殿あり。後ふ二の宮門ふ。其の中ふ春暉堂ふふ。

後ふ蕃花門あり。門内の殿を。壽萱春永ふふ。後ふ坐殿を。蘇蕊と号ふ。兩角門の内。

後ふ。

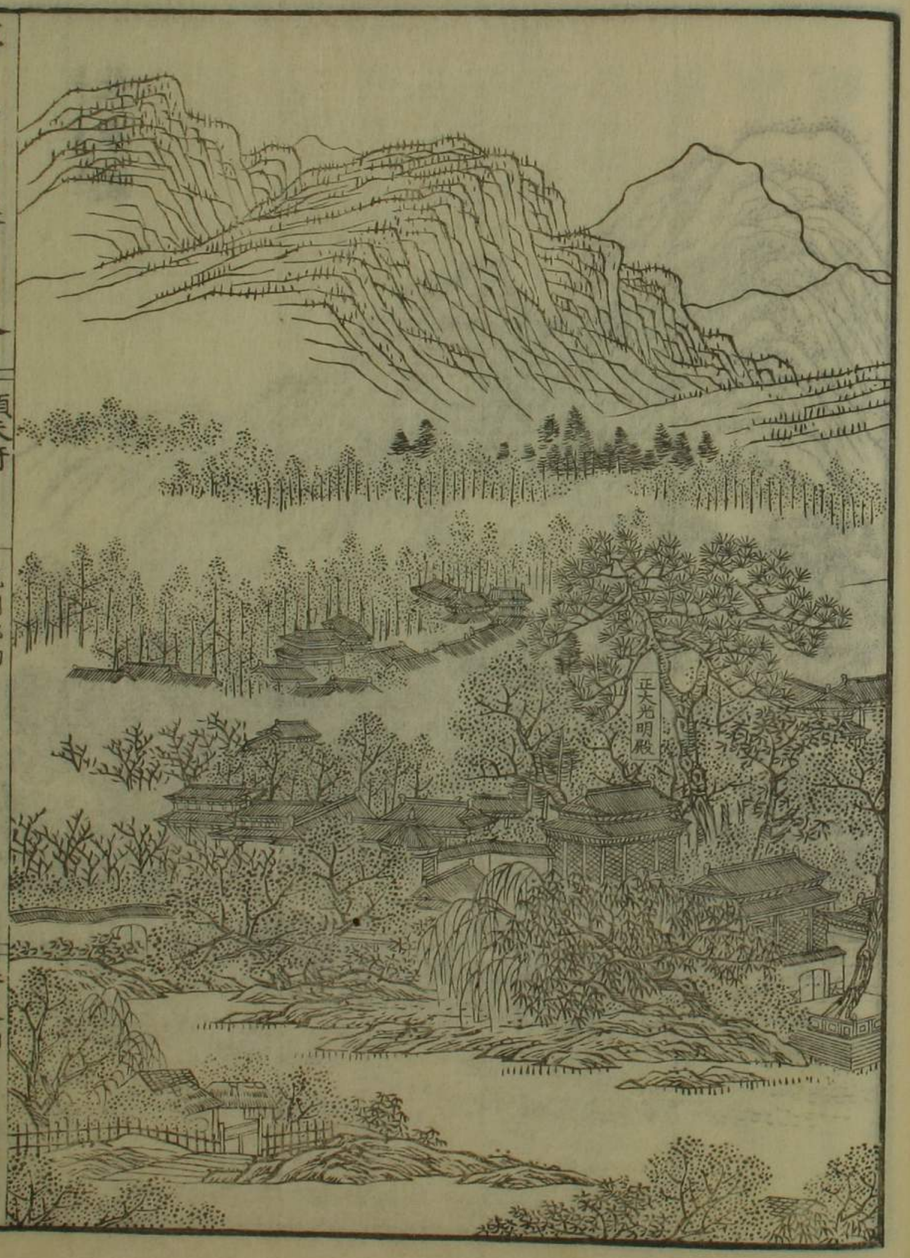


暢春園之前之門

暢春苑等備署　海渡在
清華園　明の季感曉が別業の址なり。園中亭を爰て洛雅の二字を額せり。明の蕭を后の手書なり。園中牡丹多く奇品異種他に比べきものなし。其中よ繽粉燦と名るもの二とせり。雨花のはこれを花海と称し、都下名園の第一なりとぞ。○洪雅園　階名家の別業あり
泉宗廟　丹楼閣の南、乾隆三十二年よ建。正殿よ龍王の像と拱し、殿の後よ権光閣あり。上よ真武と祀り、下に龍王龍母の像を拱ひ、乾隆両帝の御書、孫額あり。○永寧寺　階暢春園の近きよあり。名康熙乾隆両帝御書孫額あり。○西花園　暢春園の西よあり。園中正殿後殿清漪園馬廐門式楼等あり。其外堂殿坊舎等しくくも先を畳沢園あ上よ過ぎず。池の上よ石の殿あり。堂よの居室あり。
圓明園　暢春園を去ること一里許。御甲兎の小苑あり。雍正の帝、いまだ皇子たりし時賜ひし所なり。園の名、康熙帝の宸翰。雍正帝の圓明園の記、乾隆帝圓明園の後記あり。倶よ石よ勒して園中よ門、十八間三あり。殿宇堂室、稲麻のごとく、悉く記しべくもあらず。
大宮門の右、築堤道の東西皆湖水よして、これを名湖と稱し、元園の中よ在り十景あり。各御製の小序、并よ詩あり。
景山　紫禁城の北よあり。
北海　瓊華島、瀛臺、団城、白塔山あり。
中海　紫禁城の西よあり。
南海　瀛臺の南よあり。
積水潭　徳勝門の内よあり。
玉泉山　西山の麓よあり。
万寿山　玉泉山の東よあり。
香山　玉泉山の北よあり。
碧雲寺　香山の上よあり。
臥佛寺　香山の東よあり。
西山　京師の西よあり。
金山　京師の西北よあり。
盧溝橋　京師の西南よあり。
黒龍潭　京師の西北よあり。
碧雲寺　香山の上よあり。
臥佛寺　香山の東よあり。
西山　京師の西よあり。
金山　京師の西北よあり。
盧溝橋　京師の西南よあり。
黒龍潭　京師の西北よあり。

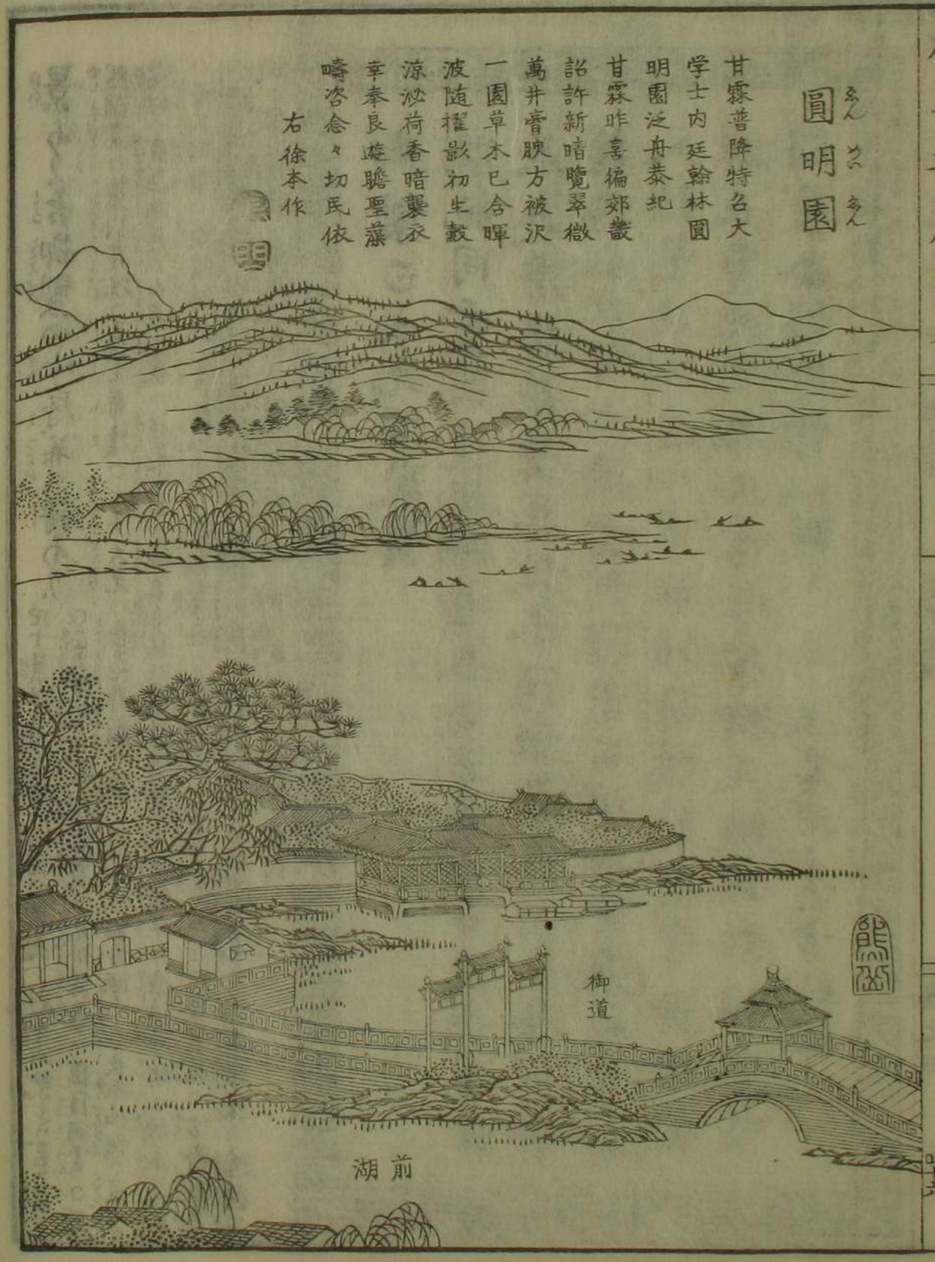
御製元大光明殿詩
勝地同霊面遺規継暢春尚年成元日奕代永居
辰義府遠羅璧恩波水瀉銀草青思示倫山静
體依仁只可方衢室何須道玉津経営懲峻宇出
入引賢臣洞達心常豁清涼境絶塵常移雲館
踶未費地官縦生意榮芳樹天機躍錦鱗宣堂
彌厘念俯仰惕心頻

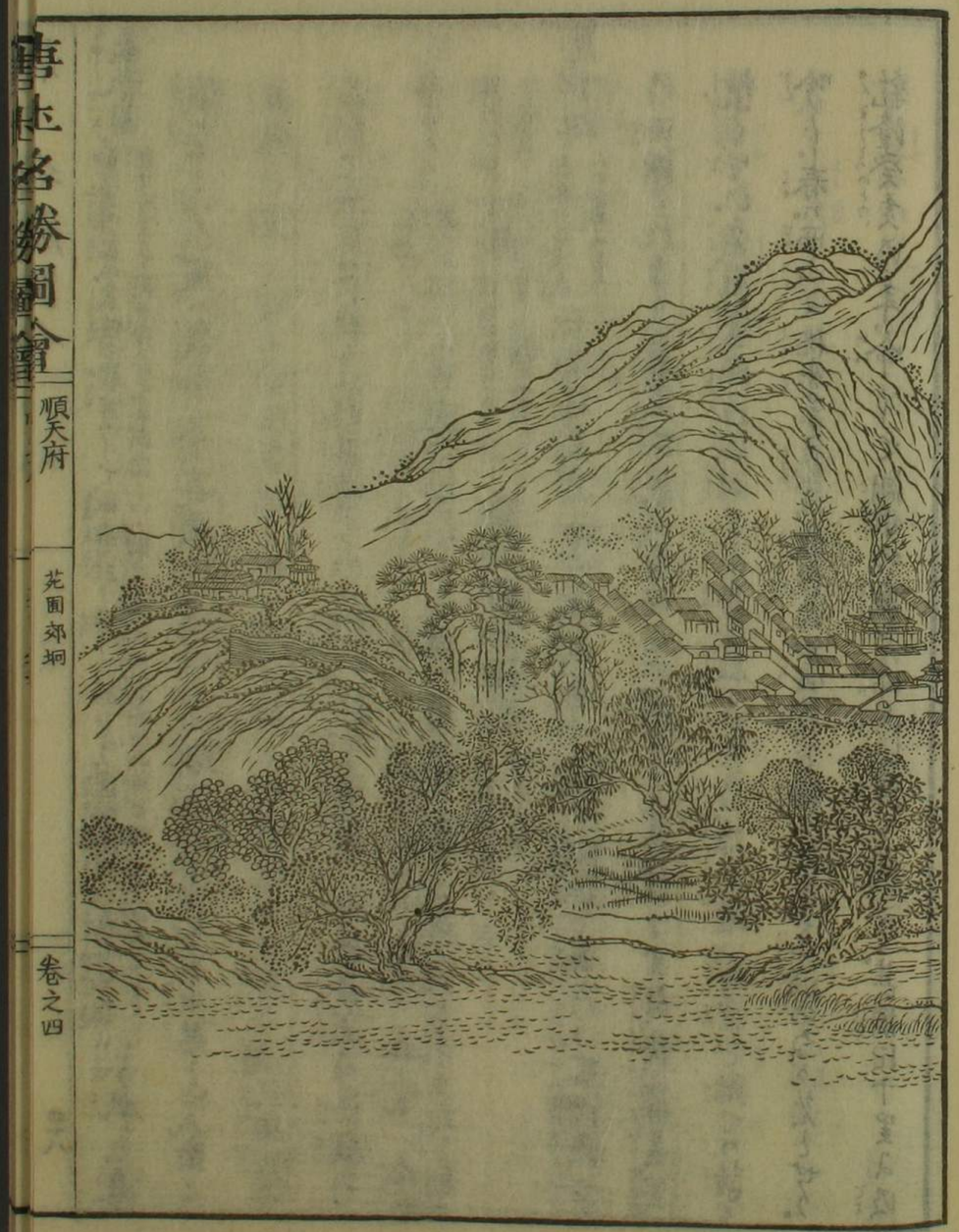
米菴河三次書



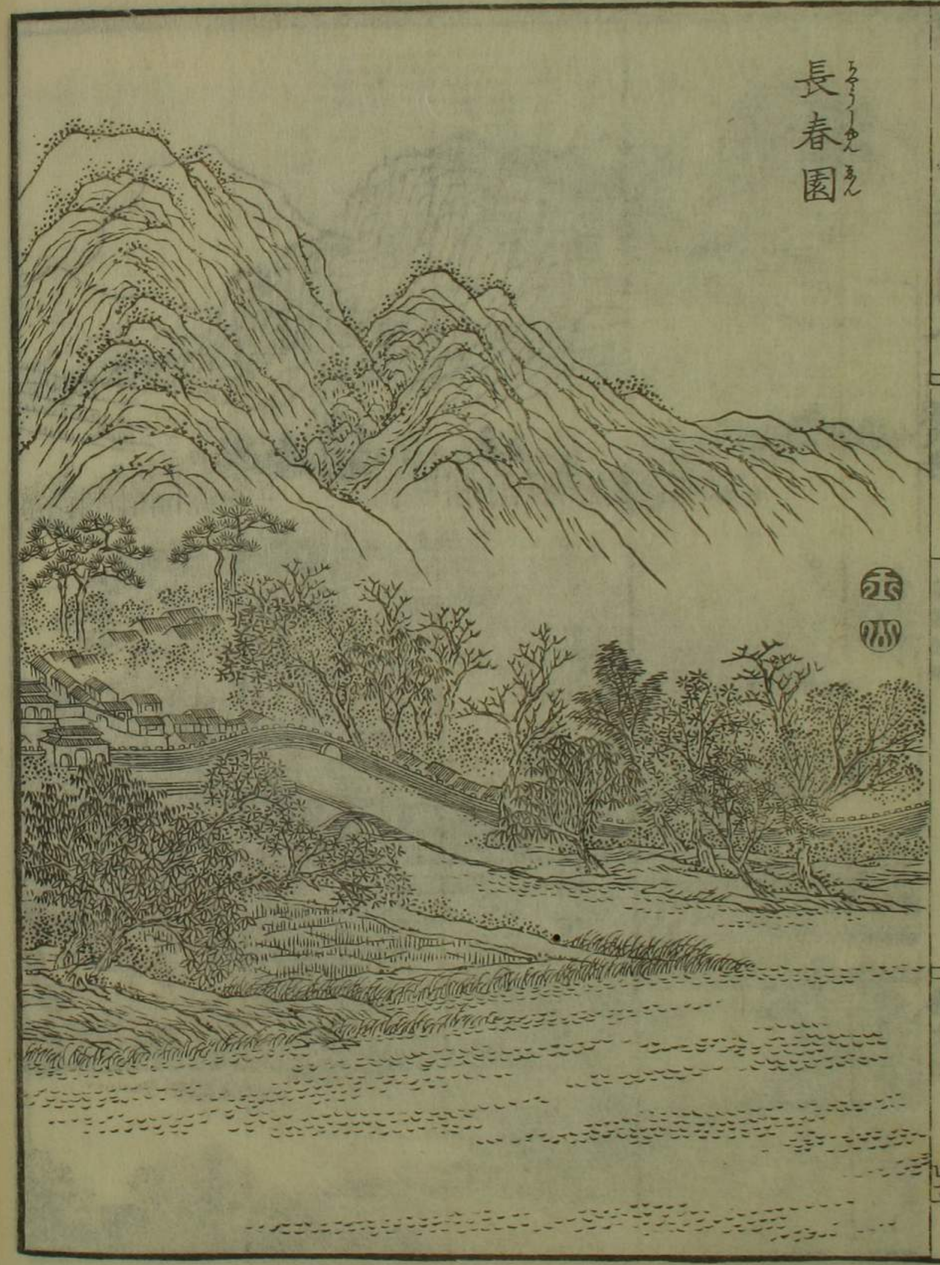
圓明園

甘霖普降特名大
学士内廷翰林圓
明園迓舟恭紀
甘霖昨喜徧郊畿
詔許新晴覽翠微
萬井睿眸方被沢
一園草木已含暉
波随櫂歌初生縠
涼沙荷香暗襲衣
幸奉良遊聆聖藻
嘻洽念々切氏依
右徐本作





長春園



長春園　舊園明園の東恠の隙地なり。園明園中の長春仙館より近きふるまで、凡そ數十畝。園中諸水を引て七ツの洞を穿ちて、樹田よそほひ。二殿を濬ひ。

懐堂といひ。後ろに衆樂亭。其後ろに河の小さき數歩あり。雲容水態ともに南よ長橋を架し。西よ合徃堂となり。後ろに澹化軒とふ。其東西の廡よ澹化園帖の石刻を嵌ひ。其後を。澹眞齋とふ。

西よあり。舊園の八景あり。○朗潤齋○湛素樓○萬壑松風○蓮朶○標勝亭○別有天○讀天祭○蓼花洲○春泛○虹橋○倦山○鮑魚堂○漪岡園○夏架○磴道○石掌亭○これを納ふ。

樹の八景　如園　澹園の西南よあり。

昆明湖　永城の西玉泉山の麓よあり。玉泉龍泉其餘の諸泉集り落て。湖水となれり。所謂燕京の西湖こんなり。甕山玉泉山を西小の滙とし。其繞十里許。荷蒲菱芡繁くせひ。鳧雁鷺鴎浮ひ遊ぶ。小舟よ棹さして。水を迎へ白雪を踏でい詩を吟ふ。春い西山よ桃李を弄ふ。秋風の蘆花を動ふを。東涯のふ。ふとせり。乾隆癸亥の年。命して湖水の底を浚ひ。岸を開きて。其周ひ十里よ及べ。且西山の泉派を探り。地勢よ随ひ。名を昆明と改ふ。堤上よ。廊如亭あり。亭の北よ。崑崙石あり。御製の詩を勒せり。側よ。卵を範はして牛を造り。其背のよふ。御製金牛の銘と鐫ふり。其外。萬壽山。崑明湖の記など。石よ勒ひ。名乾渡帝の御製なり。湖滙堰も同辞寺と名ふ。左の田疇基置ふ。右の湖水湖涙ふり。三里功德寺あり。浩波甚楽よ術を。幽林其南よ流業蔭よさきりすり。たゞめてぬる達ひ。此亦玉泉山よ高てい水を數き。堤を包ひ。池のよふ。ふとあり。明ふ宮殿帝巡幸の舟。蹕を發ふ。ふの石よふ。ふ一里よ奉慈寺あり。寺内よ三の洞あり。南よ。ふ。ふ其い窈きかめて深く。ふて陽ふ。石を掇ふとが即ち数あり。其座を掇ひる者ふ。

功德寺　元代大兼天護聖寺と名く。天歴二年。板巷禅師創建せり。明代名を功德寺と改む。規制甚きかめて鉅麗なり。乾渡の間至修ありて。御書額。御製の碑を建ふ。碑よ。趺贔屭あり。龍捲て角と鱗とふ。ふ。ふ。

昆明湖

珠林翠閣倚長湖
倒映西山入画圖
若得輕舟泛明月
風流還似剡溪無
右明馬汝驤西
湖詩

萬樹垂楊掃緑苔
桃花深映槿籬開
遊人盡說西堤好
須及清明上巳来
右王士禎西堤
詩

鴈門書

の花多く有り。一猿人の有り。曰く。老少園仙室なりと。此邊の人家皆梧桐。柳。梨。垣のやよ備へ。其地景江南の風色と相似たり。むしろ一老木あり。此山上の石の瘦と枝梢とり上に奉敬の甚しく。中の物と悉くして其石雅潤山の西邊より東。巖をこらして曰く。石雅。從玄奘帝里と。森筠のごとし。此石雅ふたゝび何國へ約しや。五利と約しごとし。朱彝尊。龍山詩。石雅西久已能。青山仍舊名。去都無一食。已覺故塵清。

清漪園　萬壽山の麓。昆明湖の西。二里許にあり。宮門あり。卷に湖水あり。石橋を跨ぐ。石橋を過ぐれば。

の坐右銘萬壽山昆明湖の記あり。殿の後に怡春堂を造り。西を玉蘭堂と云。

小を宜壽殿と云。其西を樂壽堂の後に一の大石あり。青芝油の三字を鐫す。乾隆帝の御額なり。樂壽堂の前。一の大石あり。青芝油の三字を鐫す。乾隆帝の御書なり。此石殿の前にあり。又怡壽堂の後城闕あり。小の方を惠山園あり。

亭。和奠橋。昆詩板。圖老洞。以上惠山園中の八景と稱して。其外堂殿甚多し。これをつゞく。

惠山園の西を雲繡軒と云。後に陸妄堂と云ふ。玉猿猻怪あり。又御製の碑と碑を勒を。

大報恩延壽寺　甕山にあり。即園寺の舊址なり。乾隆十六年。命して門殿五層を建らる。時御書の

額御製の詩碑あり。西は羅漢堂あり。杭州の淨慈寺の如きあるの四方の形を做て建つ。内は甲乙の十道を分け。阿羅五百の羅漢像を安置す。時御書の額を懸く。

元亟相耶律楚材之墓　甕山の南の坡麓數百武。

御製の詩碑を編入。墓の前の祠宇。慶山にあり。

畫眉山　甕山の側。金山より出づ。泉水あり。

龍神廟　泉源の西。小二十里。金山の西。畫眉山の麓。龍潭あり。此山雨澤を祷る。甚靈應あり。雍正帝御製の碑。

乾隆帝御製の詩あり。各石に勒せり。山殿

亭　南門の外にあり。前の牌坊左右の碑亭也。

龍潭　泉源。御碑亭の東にあり。水山

亭。山殿。南門。牌坊。各一。皆瑠瓦を葺く。

龍王廟　三間。前に向ひ。朱漆。殿の左右に勒せり。山殿

玉泉山　甕山の小山。その麓。清漪園の西にあり。金の章宗帝の幻宮芙蓉殿の故趾。此山間にあり。元明以來滋幸の石あり。康熙の間修葺せらるゝ。即聖祖皇帝。靜明園と改む。

とゝ名け泊ふ。玉泉山の其泉の清きを寄て。名けて。山の東小石磴の間より。

萬壽山

清漪園

黒龍潭龍神廟



玉泉涌出其石頭と號し・泉い此觴ゟより噴出せり・其味ふこと佩玉のごく・其色い素絲のごとし・味い極て甘し・瀦て池と爲ること數丈許・東ゟ小石橋を跨し・水橋下を流る・昆明湖ゟ入相傳ふ・今の章宗嘗て暑を此ゟ避と・燕京八景の一ゟく・名けて玉泉の垂虹と云・乾隆帝御書の・玉泉趵突の匾ゟを掲付らる・玉泉山の大級武い阪と蒼龍の鱗のごとし・泓然ゟ湧くこと數丈・清くして寒冽ふかし・夏雪裏と名く・

游玉泉

王・惲

峯頭亂石嶷穿水底浮光浸碧霞絶似蕪門山下路惜無修竹與

七十七翁林屋谷本脩

玉泉山（ぎょくせんざん）

玉泉道中

晚來聯騎踏晴沙
風景蒼二一望遐
幾處白雲前代寺
數村流水野人家
鶯啼別墅春猶在
馬到西山日未斜
回首不知帰路遠
九重宮殿隔烟霞

明劉大夏詩

龍王廟　玉泉山の麓にあり。廟の泉上の淨泓よよまろ。泓の廣さ數丈。涌泉數あり。魚を養ふ。ゆゑに放生池と名けて裂帛湖と云。山寺。石間より流るゝ。或いは雪のたぎつ。或いは珠を碎くが如し。石橋あり。石欄をめぐらす。漫上に幽勝たる風色筆墨の及ぶ處にあらず。廟の三殿三間。東に向ひ。黃琉璃の瓦を葺き。碧を以て飾る。左右に御書の碑。各一碑を建つ。

裂帛湖

玉環人家終日映
裂帛湖光碧如練
溪邊分明一幅蔡侯紙寫出
湖南千萬山

王士禎

河世寧

靜明園　玉泉山の下にあり。即苑園の一なり。康熙十九年に建て澄心園と名く。三十一年今の名に改む。

康熙雅正の間に。此に園武の太を列ひ給ふ。今いの其のなし。靜明園十六景

第一　玉泉垂虹　玉泉山天下第一泉の流あり。

第二　芙蓉晴照　廟の北の湖あり。第三　玉泉趵突　泉の源あり。第四　龍王廟　玉泉の南にあり。

第五　圓靈普雨　廟の南にあり。

第六　綉壁諸巒　圓靈普雨の西の南にあり。

第七　溪田課耕　綉壁諸巒の西にあり。東に仁育宮あり。東岳天齊大生仁聖帝の像を安ず。

第八　清凉禪窟　溪田課耕の北にあり。西のかた西堂園にいたる。

第九　秉香雲徑　清凉禪窟の南にあり。

第十　峽雪琴音　招鶴庭の南にあり。

第十一　玉峯塔影　峽雪琴音の南にあり。招鶴庭の北にあり。石を疊て高峯をなす。山の麓に會經堂とふ書畫舫あり。溪を隔て望む。

第十二　風篁清聽　會經堂の南の樓なり。此やうより近き一帶。飛雲隈延。深廊曲檻。修竹茂林。

第十三　鏡影涵虛　風篁清聽の西にあり。南より山の麓に沿ひ。東に向ふ。水の深き事數丈。

第十四　裂帛湖光　鏡影涵虛の後にあり。

第十五　雲外樓閣　華嚴寺の後にあり。

第十六　玉峯霽雪　華嚴寺の後にあり。

東の小南門。南の東宮門より。南宮門の西南。影湖樓あり。小東門外の長橋。石橋とも云ふ。十三の橋あり。其東に影湖橋あり。玉龍橋ほか。御園より外の聖道あり。



靜明園



呂公洞　玉泉の西二里。観音寺の傍にあり。門を入るとやがて洞あり。廣さ、深さ、俱に二畳。又観音洞もて呂公洞と呼ぶ。呂儒り、慧々慶なりと。故に洞の名とす。岩に潭あり。廣さ丈餘。山上より雨降れば雲霧洞に充ち、咫尺を辨ぜず。

上華嚴寺　下華嚴寺　俗に花兒罐漢洞の上にあり。明の英宗帝の勅額あり。二洞にあり。一寺山の腰にあり。一は殿の後にあり。七真洞とも、武當華洞とも、洞の中に石磴あり。元の耶律亞相の詩、大學士箕言が和韻と倶につけり。

耶律楚材鷓鴣天詞
花界傾頽事已遷浩歌過望意茫然江山王氣空千劫桃李春風又一年横笛
嶂架寒烟野花平碧愁啼鵑不知何限人間夢併觸沈思到酒邊

夏言和韻
人世滄桑有変遷靈岩玉洞自蹣然朝衣幾共游山日佛界仍存刻石年嗟歳
月惜風々烟等閒花発又啼鵑只将彩筆題僧壁王帯長留向日邊

西山　府の西三十里にあり。大峯の前也。山中数の蘭若ありて、白塔数十ヶ。山巒の青靄と相映じ、流泉又多く、玩ぶに堪ふ。武い塵沙の向ふ数渡ぜず。春夏の時、晴雲碧樹、花香鳥哢、相ともに秋の紅葉、さらに丹錦を



西山霽雪

山瀉淺池勝
披圖
按水經洞名
疑小
有泉品類中
泠縹
縹朝烟白微
蒨晚
岫青涓々通
太液
終古赴滄溟
吳晟
西山詩

西山道中

宋玉

鶯花三月滿春暉書字閑殘柔葉肥度寺穿禾碑半仆斷橋行愛柳成圍抽芒小麥翻新浪拔水秔遍剡衣衣望長安峰四合吟鞭早喜謝塵鞿

沙羅樹寫真

娑羅樹恭依皇祖元韻

樹開如意隨求得梵典曾摽鹿苑植曇々幢節古佛前碧眼番僧来尚識東土西天豈定形飛来灵鷲千雲青安知此樹不憶石因風作語猶冷々七葉藤葱湘盖偃縱移根越千年遠益部楚州疑附會那覩月未依雲嶼如桐如桔影團團雪覆霜疑翠鬱盤不殊調御丈夫倚曾沐曼珠師利看

乾隆帝御製



○中官遊擊署　○靜宜園　今總署と改む　○普陀山　俱舎四王府　あり

荷葉山　王家山の西南　平壤　岡阜隱起して其形荷葉のごし　俗呼て

十方普光寺　俗称佛寺と称す　後殿の内は　唐代の故刹なり　殿の内は　香樓木の　弁佛あり　唐の貞観年中の造る所　雍正帝　御制の碑　乾隆

帝　御書の額あり　殿の前は　娑羅樹二株あり　此寺　創建の時　西域より

移し　植る所なりと　今木の大さ　三圍許あり　娑羅　外國の支廣木なり　葉梅

の如くして　冬枯　夏青　春夏の間　白花を開く　花の形　梔子の花のごし

一簇　二十余の小花を　つゞり　終月を経て　花謝し　実長じ　これを喰へば　乳を

出す　心の痰を　癒すと　観音堂　弁佛寺の　西にあり　石臺あり　高さ　三丈　だゝり　多くべし　石磴　みち

より　登る　石臺上の　四圍　欄干あり　てこれを　擁して　小寶あり　泉涌出　其

源深く　清くして　これを　呑む　冷冽たり　○隆教寺　○五華寺　○廣泉

寺　○圓通寺　○右和菴　俗に観音堂の　西二三里　にあり

○此邊水源　沼と称す　両山　相挟みて　小夜線を　なせるごし　其中に泉の　湧出るもの　多く　永僥て

和尚　入定の石ぼあり　其秀でし　岩阿を　繋て　龍の首を　造る　其形　より　泉を　出す　これより　数十歩を　へて

突兀たる　土墓あり　石獣を　其墓下に　蹲踞　す　其故址なりと　或説あり　一に　退谷と　名く　澗の　西に　長院あり

澗　あり　退谷と　名く　澗の　西に　長院あり

院のむかふに　幕府　帝の　看経堂の　石松　株生す

退翁亭　退谷の　中にあり　亭の　前流水　清く　觴を　浮べ　詠じ

歸然として　烟霞窟と　云ふ　朱彝尊　退谷詩　退翁愛　退谷　未老先　柚替　行藥亂峯路　築

亭雙樹林　間中春酒　搵　靜裏山泉　音　滿目　市朝貴　何人期

此心

廣應寺　弁佛寺の　西南に　一里許　あり　寺内に　白松あり　其下より　冷水

湧出　寺より　西を　本嵩泊と　云　山頂より　は　王宝廟あり　側に　湯泉と　称せる　清水

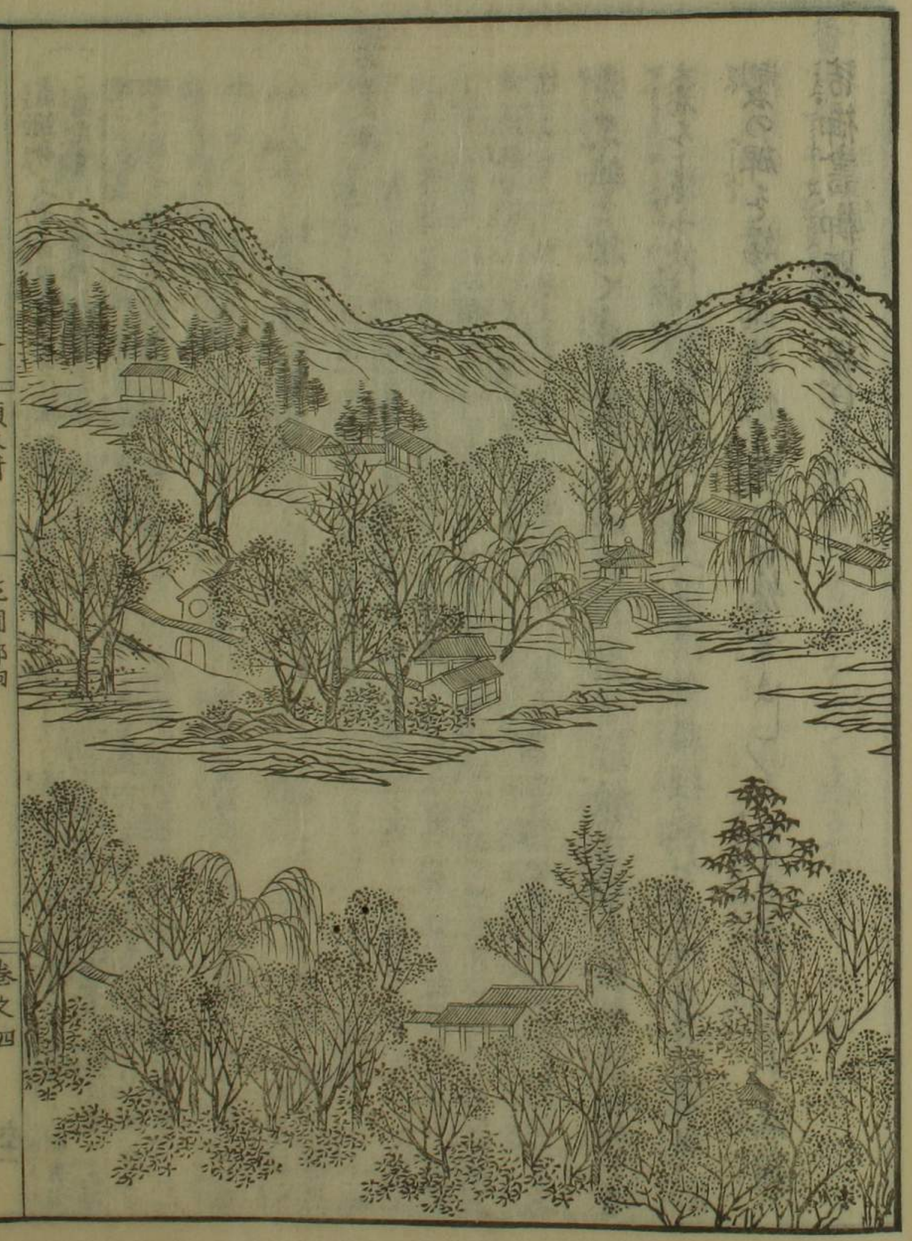
湧出せり　ゆゑに　山中　此水を　汲で　茗を　煮る　味　極て　甘し

靜宜園　香山の　麓にあり　即苑園の　一なり　池園の　内に　西に　坊あり　中石橋を　架し　其河を　丹河と　云ふ

橋を　渡れば　宮門あり　内に　勤政殿　あり　南に　小き　配殿　後に　致遠齋　静秀館　あり

西に　瀾碧齋　穂雪軒　朱の　樓を　心直和平と　云ふ　靜宜園　二十八勝　あり　位し　勤政殿

以下　其一なり　○藻鴎樓　○綠雲舫　○



靜宜園

勤政殿有引暑之軒乾隆帝
悦心期有養好樂励無荒
漫擬靈秘園偏宜山号香
問農頻駐驛咨采喜同堂
家法傳勤政孜々敢暫忘



廬朗命、之る石堂あり。茶に御製二十八景の詩を彫さり。○猗猗除峯一名猴嘆石○棲雲樓○知樂濠○香山寺○德法松○来青軒○虎霜牢○香嵓室○霞標磴○玉乳泉○徇秋林○雨香館○曙陽阿○芙蓉坪○香雲霧窟小の岩岡ヨ御書西山雲霧雪の石碑あり。○栖月崖○香巖瀧○玉華池其西ヨ小峯石疊ヨ～上ヨ御製の森石勿の多と勒でり。○陽雲積翠上ル二十八景其の目と挙て堂殿の名かんと署ス。乾隆三十六年、皇后八旬寿の節ヨい三班の九老と此香山ヨ宴て湯ひ、次の日畫工艾啓蒙ヨ命～て九老と繪しめ給ふ。九老の名目左ごとく。委宸極識略見

碧雲寺　香山ヨあり。洪光らくヨ在り。茶に杉檜松杉の繁ヨう中ヨ紛て二里ヨう、檻径ヨう入ル一の黏模たるヨう、刻石堅ヨを穿ヨ、碧雲寺ヨ在ル、碧雲寺ヨ在ルヨう、殿の右ヨは石仏堅ヨて立ヨ、ヨ入ル、ヨ在ル、ヨ入ル、ヨ在ル、ヨ入ル、ヨ在ル

入寺聞山雨群峰方夕陽
流泉自成響林壑坐生凉
竹霧春前雪花寒劫外香
湯休何處是空望碧雲長

王士禎



碧雲寺



洪光寺　西山の頂より麓まで登る小石磴九曲九十八盤よりして磴毎に松柏生ひ繁り左右屏幛をなすがごとし。後園繞門石をもて甃き其間を坐臥して至るまで山中の勝景一覽〳〵て盡ることなし。十八盤を今震標磴と云。

玉華寺　洪光寺の東にあり。靜宜園の北にあり。二十八景の一玉華凝色是なり。○宗鏡大昭之廟　靜宜園の北にあり。

香山の南靜宜園の西の峯安山あり。山上法海寺法華寺あり。互に相連る。元代の弘教寺の遺址なりと云。其麓よりむし暑云ふ計あり。て西中より三望玉帝三王の石像あり。左右圓石孤立の滴翠賢石と名て雅客の諸大儒の像あり。又五の石龍あり。經書と彫めり上より其經の名を標せり。門殿像舍龍悉石となりて雅客の外に石亭あり。内なる碑文に綽斐處士碑銘と彫る。都て處士の事蹟を載たり。又左に龍馬あり。五十五の毛旋具てもく河圖のごし。右より雜畫のごし。又むに三龍の堂あり。右より悉く龍蓬より以下皆石像の名澤ありて晉國より以下の像を圖し。左の甚小にして觀る者よく分けがしむ。且石厳中の石像の名澤ありて漢より以後のものあり。法堂の後より石洞あり。洞深肥中すぐ尚ねせり。今其石室最初像なり。何ぞのごとく鑿ちて穿ちなり。何ぞのごとく鑿ちてうがちなり。演武廳の西南に梵香寺あり。其西の最北にあり。乾隆二十七年勅して建御書の額又其西南に劉清寺あり。

寶相寺

御製の碑二あり。左の碑は乾隆帝御寫の文殊の像希賢と稱せり。

中峯　香山の後にありて西山諸峯の中にあり。左に中峯の名あり。内に中峯菴あり。石樓あり。眺の亭あり。望詩中宮丙舍即花宮松栢林前梵磬風。試上精廬高處望。樓臺金碧夕陽中。

翠巖寺　中峯の陽にあり。

敞宇　境内廣く清泉の茗を煮るに宜し。

客子口　香佛園と此をさしが即客子口なり。

靜宜園把總署　靜宜園の東南二里許にあり。其東小屯村にあり。

盧師山　寺の西三十里にあり。隋の時一沙門あり。盧師と稱し此山に居て大青小青と云二龍を馴伏し此時より盧師山の名あり。山中に盧師寺あり。寺をもて一里許にあり。

秘魔崖　師の晏座せし處なり。



盧師山（ろーさん）

盧師夙昔經行地
惆悵蒼崖古木風
最憶深秋飛瀑下
四山寒葉亂流中
王士禎



平坡山　在師山之東。山之半腹。又平地。有石。又名。又翠微山之東。又名。又翠微山之東。又名。又翠微山之東

筆架峯

湯泉（とうせん）一号十八盤山



香山十八盤
盤々種松栢
惟見獨行僧
稀逢采樵客
朱彝尊



356
2
4

て。衣愛とべ〳〵。天華。蔬と呂して食ふなし。康熙の間。山僧此苑を朝廷へ奉る。聖祖皇帝。詞臣をして分ち編ゝ。俱ゝ詩ありて。其ゝを記せ。山ゝ入て一里許籬門あり。石洞をとをこゝ殿を建ふ。文殊の金像あるさ一ゝ三尺ある弘揩ぜうゝ。又謀法身像と名く。まさう菩薩頂ゝ登る。先百ゝ丸山の頂ゝあり。

西湖山 府の西一百里ゝあり 下ゝ溪澤あり。皆ゝ名く。

百望山南ゝ西湖ゝ阻ゝ。小ゝ燕平ゝ通ゞ此ゝを去ゝ百里にゞて。其峯を見る。皆ゝ百望山の名あり。山の南ゝ祠あり。高さ五丈ばかりなり 祭りて。來歸を祈むなり。

湯泉 百望山の西小ゝあり。山陘。盤屈て。巔ゝ温泉あり。故ゝ。十八盤山と稱ず。温泉の遠の石の話 後ゝ出ゞとゝひ合ゞ。又山頂の南と小ゝ二の湖あり。毎歳春の季夏の首の時湖あ溢き流ゞて。河となれり。名を會稽河とゝ。西ゝ流ゞく峙ゝる峯あり。其形笏ゝのごとし。山上の風景甚〳〵ひ勝〳〵たり。

唐土名勝圖會卷之四終

阿波國文庫